

アイヌ音楽研究に関する文献リスト (2023年まで)

甲地利恵 (編)

- 目次
- 1 はじめに
 - 2 凡例
 - 3 アイヌ音楽研究に関する文献リスト
 - (1) 和文文献
 - (2) 欧文文献

Key Words

アイヌ音楽研究 (Ainu music studies)、文献リスト (Bibliography)、
民族音楽学 (Ethnomusicology)、音楽人類学 (Musical anthropology)

1 はじめに

本稿は、アイヌ音楽の研究において一読は欠かせない (と編者が考える)、先行研究及びそれらに関連する文献のうち和文文献と欧文⁽¹⁾ 文献について⁽²⁾、リストアップしたものである。

リストに挙がっている文献情報は、編者によるこれまでの調査研究の中で情報源・参照資料としたものを表形式で蓄積していたものが大半であるが、今回のとりまとめ作業にあたって新たに得た情報や、近年の機関リポジトリなどへのデータ掲載情報なども加えた。

なおリストのとりまとめ作業自体は、文部科学省科学研究費の助成 (基盤研究 (c) 18K01183 2018-2023年度「アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査」、研究代表者: 甲地利恵) による調査研究計画の中に位置付けて実施した。

紙幅の都合もあり今回は予め掲載対象としなかったものもあるが、編者の情報収集努力が及ばずリストに挙がっていない文献もあろう。図らずも遺漏させてしまった重要文献の筆者編者に深くお詫びするとともに、今後、情報の補遺の機会を得ることに努めていきたいと考える。

アイヌ民族の歴史や文化に関する文献目録については

既に多くの先達による優れた業績がある中で、アイヌ音楽の専門的研究を目的とした文献リストをまとめようと考えた動機などについて簡単に触れておく。

アイヌ音楽を対象として音楽学 (民族音楽学) の立場で書かれた先行研究は、日本語で記述されたものが圧倒的に多い (アイヌ音楽研究者と和人との歴史的経緯をふまえると、好むと好まざるとに関わらず、であるが)。音楽学部や音楽科のあるような大学では民族音楽学などの授業を開設している機関も少しずつ増え、非西洋圏のさまざまな伝統音楽の研究を志す若手研究者も増えているとはいえ、アイヌ音楽を音楽学的に研究する研究者やそれを志す学生は、現状ではやはり少ないと言わざるをえない。

一方、編者が勤務先でこれまでに受けた、アイヌ音楽の専門的 (音楽学的) 研究を目的とした問い合わせの半分以上は、海外の学生からであった。質問者の関心はさまざまなので一概には言えないが、音楽研究を視野に入れた照会の背景には、欧米圏の大学での民族音楽学・音楽人類学の履修のしやすさや、20世期半ばに当時の国際的に著名な民族音楽学者らがアイヌ音楽に関する論考を英語やドイツ語で発表⁽³⁾ していることなども影響していたのではと推察する。しかし、先行研究をはじめ日本語 (そしてアイヌ語) を「読みこなす」という最初のハードルはやはり高いようで、民族音楽学の素養があり

甲地利恵: 北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

- (1) ロシアはヨーロッパか否かについては、立場や視点によってさまざまな見解が見受けられる。さしずめ本稿では「欧文」を「アルファベットで記す言語」と大きく捉え、キリル文字アルファベットによる露文も含めることとした。
- (2) 中国語など、日本語以外の漢字圏の言語によるアイヌ音楽研究文献については、いくつか断片的な情報は得ているものの、現時点では網羅的悉皆的に調査したとは言えないことから、今回は割愛した。
- (3) 本稿3 (2) 4のCOLLAER (1957) や3 (2) 7のGRAF (1967) など。彼らがアイヌ音楽の音声資料を入手できた背景には、第二次世界大戦後～1960年頃までに日本放送協会が各国の放送局をはじめとする専門機関にレコード盤を定期的に寄贈しており、その中に日本放送協会編 (1948、1949、1952、1963?) (3 (2) 79の甲地 (2018: 76-83) 参照) なども含まれていたことも影響していると思われる (編者の勤務先での館内定例研究報告会 (2023年9月27日) で言及)。

ながら基本的な情報の押さえが残念ながら甘いケースもみられた。

もちろん、本稿が視野に入れているのは国外のことだけではない。アイヌ音楽研究が国内外を問わず他分野に比べればまだまだ数少ない現状では、伝承の途絶えた多くの曲目の復元や実践（演奏・伝承）という、もう一方のニーズにも応えきれていない。

こうした背景から、本稿は、まずアイヌ音楽研究のための基本的情報を共有し、相互に情報交換し、遺漏を補

完しあえる足がかりとなることを目的に着手した。インターネットで手軽に論文を検索したりパソコン上で簡易な翻訳が数秒でできたりする現代であればなおのこと、国内外を問わず、音楽の専門的研究に向けた文献リストをまとめることが必要と考えた⁽⁴⁾。

アイヌ音楽の実践（伝承、演奏）と連携できるような研究が展開すること、さらに次世代のアイヌ音楽研究者らの手につながることを、改めて願っている。

2 凡例

(1) 掲載範囲

- ・アイヌ音楽を対象とした音楽学・民族音楽学・音楽人類学の論考、またはアイヌ音楽との比較検討に重点をおいた論考等。
- ・文化人類学や口承文芸研究などの関係諸学において、アイヌ音楽研究と深く関連したテーマを扱っている論考等。
- ・実演や伝承状況を実際に見聞きしてのまとまった記述など、アイヌ音楽の伝承やその推移の研究にとって重要な情報を含むと考えられるもの。
- ・音声や映像（動画）の記録資料（レコード盤、CD、DVDなど）については、別の機会に集約することを想定し、このリストでは基本的に割愛している。音声資料等に付属する解説文なども、今回は割愛する。ただし「カセットブック」「CDブック」など、図書が主体で、付録音声資料のテキストがある、またはその音声資料を対象とした分析や考察が行われているものは掲載した。
- ・学位論文については、修士論文以上を掲載することとし、学士論文は割愛した。
- ・高等学校の部活動や大学のゼミナール活動などで編まれた活動報告書等は、今回は割愛した。
- ・学会発表や講演会の配布資料など、読者が限定されることを前提とした私家版資料等は、今回割愛した。
- ・新聞記事についても、今回は割愛した。

(2) 和文文献

- ・著者・編者・監修者等の氏名の五十音順に配列した。雑誌については原則として編者名は省略した。
- ・図書や雑誌のタイトルには『 』を付した。1冊の中にアイヌ音楽に関係する記事が複数所収されているものについては、備考欄に情報を示した。ただし、編者の調査過程での必要のため別に項目を設けた単独論文もいくつかある。
- ・雑誌の巻号は数字のみアラビア数字で記載した。ただし月刊誌は「〇年〇月号」を併記した。
- ・漢字は、固有名詞などの一部を除き、基本的に新字体で記した。
- ・発行年月日は、原則として初版の年月日を記載した。「印刷日」と「発行日」が併記されている場合は「発行日」を記載した。
- ・図書や雑誌への所収・掲載については該当ページを、図書1冊については総ページ数を記載した。
- ・序文・目次・付録等でのページ数が、本文ページ数と別に付けられているときは「*」で「備考」に「本文：〇〇、付録：〇〇」（〇〇はページ数）のように記載した。
- ・情報の確認は、現物（複写物を含む）でのほか、国立国会図書館サーチ⁽⁵⁾、北海道立図書館蔵書検索⁽⁶⁾、J-STAGE⁽⁷⁾、その他大学や公立図書館の検索システムなども適宜参照した。
- ・単行本の場合は、「編著者名」「発行年月日」「表題または書名」と「ページ」「発行所」「発行地」を1

(4) 近年、南カリフォルニア大学の坂野康司氏が「英語話者の利用に供することを目的」に「Ainu Vocal Music Research Guide」(<https://www.ainuvocalmusicresearchguide.com>)を開発し、アイヌ音楽に関する文献や音声資料、インターネット上の動画サイトの情報のリストのほか、キーワードとなるアイヌ語の解説（英語）をまとめてアップロードしている（2024年3月11日最終閲覧）。掲載されている情報の中には精査が必要なものもあるが、アイヌ音楽に関心を持ちながらこれまで情報を得られずにいた英語圏の人の足がかりとしては有効であろう。

(5) <https://iss.ndl.go.jp>（2024年3月11日最終閲覧）なお、定期刊行物については、「国立国会図書館デジタルコレクション」で編者が確認できた限りの情報は記載したが、全てを検索・確認したわけではない。

(6) <https://www.library.pref.hokkaido.jp/wo/opc/srh/?styp=adv>（2024年3月11日最終閲覧）

(7) <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>、[researchmap](https://www.researchmap.jp)（2024年3月11日最終閲覧）

行にまとめて記載した。

- ・今回の調査でウェブサイトへの発行機関によるアップロードが確認できなかったものについては「webページ名」「URL」「最終閲覧年月日」の行は省略した。また私的に開設されたサイトでのアップロードについては記載しなかった。
- ・ウェブ上で閲覧やダウンロードができるものについては、データファイルを開く一つ手前のページ（インデックスページ等）のタイトルとURLを記した。
- ・このリストに挙がっている和文文献を示すときは、「3 (1)・・・」の「・・・」に「通し番号」を入れて示した。

(3) 欧文文献

- ・本文が欧文（ロシア語を含む）で書かれた文献を掲載した。
- ・配列は、著者・編者の姓のアルファベット順とした。

- ・姓はすべて大文字で、名は最初の1文字だけ大文字で記した。著者の文化的背景に拘わらず一律に「姓」を先に記し、姓と名の間をカンマ（,）で区切った。
- ・日本人著者の氏名と、翻訳などで日本語表記による著者名の出版物等がある著者については、ローマ字表記の後に（ ）内に日本語表記名を記した。
- ・編者については「(ed.)」を氏名の最後に付けた。
- ・図書名・雑誌名はイタリック体で記した。
- ・日本での出版物については、「発行所」「発行地」は日本語で表記した。
- ・記載情報については現物（複写物）のほか、JSTOR⁽⁸⁾、ACADEMIA⁽⁹⁾なども適宜参照した。
- ・このリストに挙がっている欧文文献を示すときは、「3 (2)・・・」の「・・・」に「通し番号」を入れて示した。
- ・ほかは和文文献の記載方法に準じた。

謝辞

懇切丁寧に注記していただき多大なご助力を賜った査読の諸氏、編者の唐突な連絡や照会に親切に対応いただいた著者諸氏、国立国会図書館・北海道立図書館・札幌市中央図書館・東京文化会館音楽資料室・民音音楽博物館音楽ライブラリー・東京藝術大学附属図書館・その他ご助力いただいた関係機関に、記して感謝申し上げます。

参考資料

- 日本放送協会（編・制作）・知里真志保（監修）1948. アイヌ歌謡集 第1集. 日本放送協会放送文化研究所・日本コロムビア.
- 日本放送協会（編・制作）・知里真志保（監修）1949. アイヌ歌謡集 第1集. 日本放送協会放送文化研究所・日本コロムビア.
- 日本放送協会（編・制作）・知里真志保（監修）1951. 樺太アイヌの古謡. 日本放送協会.
- 日本放送協会（編・制作）1963か？. Ainu's Traditional Music. 日本放送協会.
- NHK「民謡大観」制作スタッフ編 1995. NHK民謡調査の記録. 日本放送協会.

(8) <https://www.jstor.org> (2024年3月11日最終閲覧)

(9) <https://www.academia.edu> (2024年3月11日最終閲覧)

3 アイヌ音楽研究に関する文献リスト

(1) 和文文献

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	最終閲覧年月日			
1	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2012年3月	『アイヌ生活文化再現マニュアル トンコリ【五弦琴】』	61	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2024/2/1
2	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2014年3月	『アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り【リムセ・ホリッパ】』	63	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2024/2/1
3 (1) 3～7のようにタイトルに伝承地域名（撮影地）が記載されていないが「阿寒」「平取」での伝承曲を収録。						
3	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2014年7月	『アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り【リムセ・ホリッパ】帯広・様似・白糠編』	63	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2023/12/6
4	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2015年7月	『アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り【ウポポ・ホリッパ・リムセ】旭川・千歳・弟子屈編』	63	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2023/12/6
5	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2016年7月	『アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り【ウポポ・ホリッパ・リムセ】札幌・静内・鶴川編』	67	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2023/12/6
6	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2017年7月	『アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り【ウポポ・ホリッパ・リムセ】浦河・釧路春採編』	63	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2023/12/6
7	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（編）	2018年12月	『アイヌ生活文化再現マニュアル 踊り【ウポポ・ホリッパ・リムセ】白老・新冠編』	67	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
	公益財団法人アイヌ民族文化財団		https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/manual/index.html			2023/12/6
8	財団法人アイヌ民族博物館（編）	2005年12月27日	『西平ウメとトンコリ』	96	財団法人アイヌ民族博物館	白老
	CD、DVD（各1枚）付き。3（1）9と同じ内容。					
9	財団法人アイヌ民族博物館（編）	2006年2月28日	『トンコリを中心とした西平ウメの伝承及びトンコリの総合的研究報告書』	96	財団法人アイヌ民族博物館	白老
	CD、DVD（各1枚）付き。3（1）8と同じ内容。					
10	青山俊生	1995年3月	標茶のムックリ製作方法—マキリー本のムックリづくり—			
			『標茶町郷土館報告』8	40-47	標茶町郷土館	標茶

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地	
	所収編者名 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	備考				
11	阿部和厚	2002年3月15日	口琴による発音、音色の変化についての解剖学的考察	97-114	阿部和厚北海道大学 退官記念出版会	札幌	
			阿部和厚先生退館記念出版会（編） 『エルムの梢を吹く風のように』				奥付なし、編者・出版年は編集後記を参照した。このほか「ムックリ教室」（p.87-90）「ヨーロッパの口琴黄金時代—十八世紀から十九世紀」（p.97-124）なども所収。
12	伊賀ふで（著） 麻生直子・植村佳弘（編）	2012年4月20日	『アイヌ・母（ハボ）のうた 伊賀ふで詩集 CD「はるとりのウポポ（アイヌ語音声）付』	158	現代書館	東京	
			付録CD（1枚）。				
13	石田久大	2020年3月	アイヌ歌謡教材化奮闘記	89-91	北海道民族学会	札幌	
			『北海道民族学』16				北海道民族学会>学会誌>第16号>特別講演会報告 https://hes.official.jp/index.php/info10/kaishi/244-16
			北海道民族学会での特別講演会の報告。				
14	石田久大・杉江光・ 菅野道雄	2012年	アイヌ歌謡の特徴と教材化	36-42	全日本音楽教育研究会 大学部会	東京	
			『全日本音楽教育研究会 大学部会誌』24				
15	伊藤幹・岡田真由美	1988年3月30日	日本国内の伝統楽器に関する調査報告（1）—北海道地方—	45-64	国立音楽大学音楽研究所	東京	
			『音楽研究所年報』7				国立音楽大学の楽器資料館による調査報告。
16	伊藤多喜雄・山村基毅	1993年3月19日	『北の海の道』	162	伊藤多喜雄音楽事務所	川崎	
			「5 継がれる唄」（p.95-118）に木幡松太郎氏への取材に関する記述。付録CD（1枚）には同氏による「ヤイサマ」他収録。				
17	伊福部昭	1959年	アイヌ族の音楽	16-21	音楽之友社	東京	
			『音楽芸術』17-13（1959年12月号）				伊福部昭公式ホームページ>伊福部昭を読む https://www.akira-ifukube.jp/伊福部昭を読む/
			小林淳（編）伊福部昭（著）『伊福部昭 綴る—伊福部昭 論文・随筆集—』（2013、ワイズ出版）p.100-107に再収。				
18	岩澤孝子	2021年10月1日	映像・図書資料に基づく樺太アイヌ古式舞踊の再現	H07	日本文化人類学会	（未確認）	
			J-STAGE>日本文化人類学会研究大会発表要旨集 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2021/0/2021_H07/_article/-char/ja				第55回研究大会の開催地は京都。
19	岩澤孝子	2022年9月13日	樺太アイヌ舞踊文化の復元と普及	F02	日本文化人類学会	（未確認）	
			J-STAGE>日本文化人類学会研究大会発表要旨集 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2022/0/2022_F02/_article/-char/ja/				第56回研究大会の開催地は東京。
20	岩澤孝子・百瀬響・ 坂本恵衣	2019年	アイヌ 古式舞踊の記録と伝承—鶴川アイヌを事例として—	1-11	舞踊学会	岡山	
			J-STAGE>舞踊学>2019巻（2019）42号 https://www.jstage.jst.go.jp/article/buyougaku/2019/42/2019_01/_article/-char/ja				
21	宇田川洋	1989年12月10日	北方地域の古代弦楽器試論—弓弭形角製品の解釈—	197-214	六興出版	東京	
			渡辺仁教授古稀記念論文集刊行会（編） 『考古学と民族誌 渡辺仁教授古稀記念論文集』				

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第9号 2024年

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	掲載誌名 URL					
備考							
22	荻原小百合	1998年3月20日	現代におけるアイヌの音楽活動に関する一考察 —道東塔路の事例から—		110	上越教育大学	上越
修士論文（上越教育大学）							
23	荻原小百合	2000年3月31日	標茶町塘路におけるアイヌの音楽活動に関する一考察				
			『標茶町郷土館報告』12		7-35	標茶町郷土館	標茶
24	荻原小百合	2002年3月31日	現代におけるアイヌの音楽活動に関する一考察—道東塘路の事例から—				
			『環オホーツク』9		49-58	北の文化シンポジウム 実行委員会委員長 桑原誠	紋別
第9回環オホーツク文化のつどい（2001年開催）の報告書。							
25	荻原小百合	2003年3月25日	アイヌ音文化に関する試論		344	北海道大学	札幌
修士論文（北海道大学）。							
26	荻原小百合	2013年6月28日	サハとアイヌの口琴を巡る「音文化」の人類学的研究		(未確認)	北海道大学	札幌
	北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）		https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/53195				2024/2/1
博士論文（北海道大学）。URLは要旨の掲載先。							
27	荻原小百合	2018年12月	サハとアイヌの音楽交流				
	永山ゆかり・吉田睦（編）		『アジアとしてのシベリア ロシアの中のシベリア先住民世界』		214-233	勉誠出版	東京
28	太田太郎	1951年2月10日	アイヌの気鳴楽器				
	東洋音楽学会（編）		『東洋音楽研究』9		47-69	音楽之友社	東京
	J-STAGE>東洋音楽研究		https://www.jstage.jst.go.jp/article/toyongakukenkyu1936/1951/9/1951_9_47/_article/-char/ja				2024/2/1
東洋音楽学会の学会誌に掲載。アイヌの気鳴楽器に焦点を絞っての音楽学者による論考としては初。アイヌ民族やアイヌ文化に対する記述には不正確だったり、現在では不適切なものもある。							
29	大矢京右	2003年12月20日	クリルアイヌの歌舞				
			『itahcara（イタハチャラ）』2		26-41	『itahcara』第2号編集 事務局 代表 北原次郎太	千葉
30	大矢京右	2011年3月31日	アイヌの弦鳴楽器				
			『市立函館博物館研究紀要』21		1-18	市立函館博物館	函館
	市立函館博物館>市立函館博物館研究紀要		http://hakohaku.com/top/research/bulletin/				2024/2/1
北海道・樺太・千島で収集されたアイヌの弦鳴楽器及び関連する文献資料に基づく19世紀後半の各地域の楽器と歴史状況に関する論考。							
31	大矢京右	2021年3月31日	児玉コレクションのトンコリ				
			『市立函館博物館研究紀要』31		1-5	市立函館博物館	函館
	市立函館博物館>市立函館博物館研究紀要		http://hakohaku.com/top/research/bulletin/				2024/3/5
32	沖野慎二	1994年3月25日	アイヌ民族に“うなり板”は実在したか？ —N.G.マンローアイヌ：信仰と儀礼のある記述をめぐって—				
			『北海道立北方民族博物館研究紀要』第3号		39-59	北海道立北方民族博物館	網走
音具の「うなり板」に注目した論考。							

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名 webページ名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
33	沖野慎二	1998年3月31日	失われた千島アイヌの弦鳴楽器について 『環オホーツク』5	53-62	北の文化シンポジウム 実行委員会委員長 油谷昌幸	紋別
「第5回環オホーツク海文化のつどい」（1997年開催）の報告書に掲載。						
34	沖野慎二	1998年3月	失われた千島アイヌの弦鳴楽器について 『北海道民族学通信』1997・1-2	4-5	谷本一之 (北海道民族学会)	札幌
北海道民族学会>学会通信			https://hes.official.jp/index.php/info10/kaishi/23-journal/bkn/167-tsushin014			2024/2/1
35	沖野慎二	2000年3月	アイヌ民族の楽器—レラスィェフ・パラライキを中心に（講義録） 『アイヌ文化』24	3-28	財団法人アイヌ無形文 化伝承保存会	札幌
36	奥田統己	1988年12月	静内地方のユーカラにおけるリズムと詞句の 関係について	*	千葉大学	千葉
*口絵・目次ほか：（ノンブル）5、本文と付章：97。修士論文（千葉大学）。						
37	奥田統己	1990年3月	静内地方のユーカラにおけるリズムの形式について 『口承文藝研究』13	44-50	日本口承文芸学会	東京
日本口承文芸学会>機関誌『口承文藝研究』			https://ko-sho.org/page/activity/kikanshi/kikanshi-1990.html			2024/2/20
38	奥田統己	1991年9月	カムイユカラの詞句のアクセントとメロディーの関係 『アイヌ文化』16	22-33	財団法人アイヌ無形文 化伝承保存会	札幌
国立国会図書館デジタルコレクション			https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/4420410			2024/2/21
神謡の行頭の詞句のアクセントと旋律（音の高低）とに見出せる規則的な関係性について指摘。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。						
39	奥田統己	1994年2月28日	アイヌ口誦文芸の語りかたの解明のために 北方言語研究者協議会（編）『アイヌ語の集い《知里真志保を継ぐ》』	73-79	北海道出版企画センター	札幌
40	奥田統己	2012年9月30日	アイヌ語の韻文における音節数志向とアクセント志向 『ユーラシア言語文化論集』14	1-19	千葉大学ユーラシア言 語文化論講座	千葉
アイヌ語韻文での音節のリズム配分に2種類の志向性があることについて指摘。						
41	奥田統己	2017年3月	神謡と叙情歌の韻律的志向性 沙流地方の語り手の録音から 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』2	33-40	北海道博物館アイヌ民 族文化研究センター	札幌
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要			https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/wp-content/uploads/2018/03/bulletin_ACRC_vol2_02_p33_40s.pdf			2024/2/1
42	奥田統己	2019年3月	千歳地方の神謡の韻律的志向性 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』4	73-78	北海道博物館アイヌ民 族文化研究センター	札幌
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要			https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/wp-content/uploads/2019/04/bulletin_ACRC_vol4_04_p073_078.pdf			2024/2/1

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第9号 2024年

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	URL	所収書名・掲載誌名	最終閲覧年月日			
43	葛西猛千代	1943年12月10日	『樺太アイヌの民俗』		73	樺太文化振興會	豊原（樺太）
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/pid/12287989				2024/3/12
	樺太庁博物館叢書9。全6章で「一、語りものと唄」（p.2-15）、「二、樂器と踊」（p.16-18）。1975年にみやま書房より復刻版。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可（要ログイン）。						
44	門田昌大	2014年	舞踊に対する認識—北海道平取町におけるアイヌ古式舞踊を通して—		(未確認)	北海道大学	札幌
	平成26年度修士論文（北海道大学）。						
45	金谷栄二郎・宇田川洋	1986年3月10日	『樺太アイヌのトンコリ』		76	常呂町郷土研究同好会	常呂
46	萱野茂	1998年3月1日	『萱野茂のアイヌ神話集成』		*	ビクターエンタテインメント／平凡社／日本伝統文化振興財団	東京
	全10巻。*1巻：178、2巻：127、3巻：172、4巻：153、5巻：162、6巻：115、7巻：145、8巻：99、9巻：137、10巻：239。第1～9巻にCD（各1枚）、第10巻にCD（2枚）とVHSビデオ（1巻）が付録。						
47	川端ひろ子	1979年12月25日	北海道アイヌの舞踊について—舞踊の種類—				
			『藤女子大学・藤女子短期大学紀要 第II部』17		7-21	藤女子大学	札幌
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/pid/2284522/1/5				2024/3/11
	目次では著者名は「川端博子」。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。						
48	北原次郎太	2003年2月1日	トンコリの戦後史—1945年～1977年を中心に—				
			『千葉大学 社会文化研究』7		9-18	千葉大学大学院社会文化科学研究所	千葉
49	北原次郎太	2003年7月1日	トンコリの戦後史2—1977年～1998年まで—				
			『千葉大学 ユーラシア言語文化論集』6		67-94	千葉大学	千葉
	千葉大学学術成果ポジトリ>ユーラシア言語文化論集		https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/search/simple/?lang=0&mode=0&opkey=R170837133533792&list_sort=3&disp_cnt=20&facet_item=volnum&facet_val1=6&facet_val2=ZZZZZZZZ&con_kywd=&cate_schema=1000&chk_schema=1000&codeno=1&fc_val=&req=facet				2024/2/20
	3 (1) 48の続編。						
50	北原次郎太	2003年7月1日	tonkoriとシャマニズム				
			『itahcara（イタハチャラ）』創刊号		25-35	『itahcara』創刊号編集事務局 代表 楠本克子	札幌
51	北原次郎太	2004年7月1日	アイヌ興行団に関する一資料 附・『歴史写真』記事目録				
			『itahcara（イタハチャラ）』3		1-18	『itahcara』第3号編集事務局 代表 北原次郎太	千葉
52	北原次郎太	2004年12月20日	最近の調査から（2）宗谷のトンコリ				
			『itahcara（イタハチャラ）』4		28	『itahcara』第4号編集事務局 田村将人	千葉
53	北原次郎太	2015年	北方の樂器たち（1）～（5）				
			『月刊シロロ』6月号			アイヌ民族博物館	白老
	アイヌと自然 デジタル図鑑>月刊シロロ		https://ainugo.nam.go.jp/siror/monthly/#01				2024/2/1
	ウェブ連載「シンリウレンパ（祖先の暮らし）」第4～8回（6・7・8・9・11月号）。						

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
備考	webページ名	URL				
54	北原次郎太	2017年	北方の楽器たち（補遺1） 鉄製口琴で戦う乙女ーほか 『月刊シロロ』6月号		アイヌ民族博物館	白老
	アイヌと自然 デジタル図鑑>月刊シロロ	https://ainugo.nam.go.jp/siror/monthly/#01				2024/2/1
	ウェブ連載「シンリッウレシバ（祖先の暮らし）」第22回。					
55	北原次郎太	2017年	北方の楽器たち（補遺2） 千島? 釧路? のカチヨ 『月刊シロロ』8月号		アイヌ民族博物館	白老
	アイヌと自然 デジタル図鑑>月刊シロロ	https://ainugo.nam.go.jp/siror/monthly/#01				2024/2/1
	ウェブ連載「シンリッウレシバ（祖先の暮らし）」第23回。					
56	楠本克子	2006年12月1日	トンコリを総譜で 『Itahcara（イタハチャラ）』5	36-38	『Itahcara』第5号編集事務局 北原次郎太	白老
57	久保寺逸彦	1939年3月15日	アイヌの音楽と歌謡 『民族学研究』5-5・6	1-43	日本民族学会	東京
	J-STAGE>民族学研究	https://www.jstage.jst.go.jp/browse/minkennews/5/5-6/_contents/-char/ja				2024/2/1
	『久保寺逸彦著作集2』（2004、草風館）p.9-40に再収。					
58	久保寺逸彦	1951年4月～6月	アイヌ民族の歌謡 『フィルハーモニー=Philharmony』1951年4月号、同5月号、同6月号		NHK交響楽団	東京
	4月号：p.54-63、5月号：p.55-64、6月号：p.54-64					
59	黒岩俊生	1985年3月31日	トンコリ作りの記録 『カラフトアイヌ古式舞踊』	16-46	日本民俗舞踊研究会	東京
	日本民俗舞踊研究会（編）					
	所収書については3（1）193を参照。					
60	黒岩俊生	1986年3月31日	民族楽器・トンコリ製作試論 『士別市立博物館報告』4	65-79	士別市立博物館	士別
61	言語・音楽班 （ピウスツキ総合科研）	1987年3月31日	B.ピウスツキ蠟管の録音内容 『国立民族学博物館研究報告別冊5号 ピウスツキ資料と北方諸民族文化の研究』	207-266	国立民族学博物館	吹田
	加藤九祚・小谷凱宣（編）					
	文部省科学研究費補助金（総合研究A）「ピウスツキ 北方資料を基礎とする日本周辺北方諸文化の総合的研究」（代表：加藤九祚）の報告書に掲載。					
62	小泉文夫	1978年5月15日	消えていく楽器 トンコリ 『エスキモーの歌 民族音楽紀行』	320-324	青土社	東京
	小泉文夫					
	初出は1963年8月『ヤマハニュース』（連載「民族楽器を訪ねて」）、単行本収録時にp.324の後注が入る。『小泉文夫著作選集③民族音楽紀行 エスキモーの歌』（2003、学習研究社）にも再収。					
63	甲地利恵	1995年3月30日	アイヌ古式舞踊伝承団体のレパトリーにおける歌をめぐる 一国の重要無形民俗文化財の追加指定を受けた9団体の歌の記録追補一 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1	79-122	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	北海道立アイヌ民族文化研究センター>研究紀要	https://ainu-center.hm.pref.hokkaido.lg.jp/05_001.htm#018				2024/2/12
	北海道教育委員会による調査（3（1）204～206）時の録音からの採譜及び分析。					

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL					
64	甲地利恵	1997年3月25日	「貝沢こゆきのイヨハイオチシ」について				
			『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3		41-75	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	東京藝術大学小泉文夫記念資料室所蔵の音声資料（3（1）67参照）の分析。						
65	甲地利恵	1999年3月25日	朗唱される祈りの旋律について～二谷一太郎氏の場合を例に～				
			『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』5		115-133	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	東京藝術大学小泉文夫記念資料室所蔵の音声資料（3（1）67参照）の分析。						
66	甲地利恵	2000年3月24日	「クモの神の自叙」の音楽について～旋律構造とリズム配分を中心に～				
			『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』6		151-186	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	東京藝術大学小泉文夫記念資料室所蔵の音声資料（3（1）67参照）の分析。						
67	甲地利恵（編）	2001年3月	小泉文夫記念資料室所蔵のアイヌ音楽録音資料				
		柘植元一（編）*	『民族音楽アーカイヴズにおけるマルチメディア・データベースに関する研究－音響を主体とするメディア統合をめざして－』		45-90	柘植元一	東京
	音楽学者の小泉文夫（1927～1983）が1960年に自ら採録した音声資料や、収集した関連音声資料の内容調査の報告。奥付なし。発行年・発行者は表紙の記載に基づく。 *平成9年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書 研究課題番号09490011 研究代表者 柘植元一（東京藝術大学音楽学部）						
68	甲地利恵	2002年3月25日	「クモの神の自叙」の音楽について（続） －神謡の演唱にみる音節数・アクセント・音型・リズム型の相互関係－				
			『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』8		41-59	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	東京藝術大学小泉文夫記念資料室所蔵の音声資料（3（1）67参照）の分析。3（1）66の続き。						
69	甲地利恵	2004年3月	旭川地方におけるタツカラについて－杉村満さんの伝承より－				
			『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』10		125-151	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	北海道立アイヌ民族文化研究センター→研究紀要		https://ainu-center.hm.pref.hokkaido.lg.jp/05_001.htm#018				2024/2/12
	北海道博物館所蔵職員採録音声資料（CC800031～CC800034）に基づく。						
70	甲地利恵	2004年10月1日	重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」伝承の現在				
			『月刊 文化財』平成16年10月号		12-15	文化庁	東京
71	甲地利恵	2006年3月24日	沙流川流域に伝わるアイヌの「神謡」の音楽について（1）概説（2）拍節構造				
			『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』12		1-42	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
72	甲地利恵	2006年3月20日	北方諸民族の声の彩ーアイヌ音楽から考える				
	北海道立北方民族博物館（編集）		『環北太平洋の環境と文化』		144-154	北海道立北方民族博物館	網走
	3（2）16を日本語にして、加筆修正したもの。						
73	甲地利恵	2007年4月30日	アイヌ音楽				
	音楽之友社（編）		『日本音楽基本用語辞典』		159-168	音楽之友社	東京
74	甲地利恵	2007年5月1日	鳥になる				
			『月刊みんぱく』2007年5月号		5-6	人間文化研究機構国立民族学博物館	吹田

甲地利恵（編） アイヌ音楽に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名 webページ名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
75	甲地利恵	2010年3月25日	魔祓いの儀礼、および魔祓いに関連する歌や踊りについての聴き取り ー北海道立アイヌ民族文化研究センター採録音声資料よりー 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』16	39-92	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌 2024/2/12
北海道博物館所蔵職員採録音声資料（CC800064ほか、計14点）に基づく。						
76	甲地利恵	2012年3月26日	伝統的なアイヌ音楽のモノフォニーの歌唱形式におけるポリフォニーの要素 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』18	51-90	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌 2024/2/12
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要		https://ainu-center.hm.pref.hokkaido.lg.jp/05_001.htm#018				
77	甲地利恵	2015年3月16日	アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試み ー平取地方の「cupka wa kamuy ran」録音資料の比較をとおしてー 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』21	113-148	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌 2024/2/20
78	甲地利恵	2017年3月	アイヌ音楽における奇数拍節及び「音頭一同」形式との関係について 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』2	41-52	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター	札幌 2024/2/20
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要		https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/publication/bulletin_acrc_vol3/				
79	甲地利恵	2018年3月	アイヌ音楽の音声資料 ー公刊されたアナログレコード盤ー 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3	73-116	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター	札幌 2024/2/20
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要		https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/publication/bulletin_acrc_vol3/				
アナログレコード盤計27件の内容の一覧。						
80	甲地利恵	2020年1月14日	「歴史的音源」で聴けるアイヌの芸能について 国立国会図書館 歴史的音源>テーマ別音源紹介		国立国会図書館	2024/2/12
		https://rekion.dl.ndl.go.jp/ja/ongen_shoukai_16				
ウェブサイト記事。英語版については3（2）19。						
81	甲地利恵	2020年3月	再考・アイヌの神謡の旋律構造についてー「iwakahore」の旋律分析を中心にー 『北海道民族学』16	104-105	北海道民族学会	札幌 2024/2/1
北海道民族学会>学会誌		https://hes.official.jp/index.php/info10/kaishi/244-16				
日本放送協会（編・制作）（1949）収録の神謡の分析。神謡の旋律分析方法案を提示。						
82	甲地利恵	2021年12月27日	「ウコウク」による「座り歌」の響きーアイヌ音楽を味わいましょうー 『開発こうほう』2022年1月号	22-25	一般財団法人北海道開発協会	札幌 2024/2/1
一般財団法人北海道開発協会>広報紙「開発こうほう」		https://www.hkk.or.jp/kouhou/back2022.html				
83	甲地利恵	2022年3月	神謡の旋律型とその分類方法に関するノート ー折返し句の旋律と物語本文の旋律との関係性についてー 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』7	9-40	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター	札幌 2024/2/20
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要		https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/publication/bulletin_acrc_vol7/				
3（2）81の甲地（2020）で実施した分析方法を用いている。						

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第9号 2024年

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	最終閲覧年月日			
84	甲地利恵	2023年3月	アイヌの歌の伝統的な技巧の、ジャンルによる使い分けについてのノート	59-89	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター	札幌
			『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』8			
北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要		https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/publication/bulletin_acrc_vol8/				
使用した音声資料のうちYC800020-01、YC800027については「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」(https://ainugo.hm.pref.hokkaido.lg.jp/html/02_00_00_00.html)で試聴可能。						
85	河野広道	1956年1月25日	『アイヌの踊』	68	楡書房	札幌
86	呉 松旆	2023年3月31日	アイヌの歌・踊りの伝承に関する一考察 —札幌を拠点とするアイヌ古式舞踊の保存会を事例として—	14-28	北海道民族学会	札幌
			『北海道民族学』19			
北海道民族学会>学会誌						
*2024年3月以降、同学会ウェブサイト (https://hes.official.jp/index.php/info10/kaishi) にアップロードされる予定。						
87	小林公江	1985年3月31日	樺太アイヌの音楽	47-74	日本民俗舞踊研究会	東京
			『カラフトアイヌ古式舞踊』			
所収書については3 (1) 193。						
88	小林幸男	1988年2月15日	イヨンノッカ 雪と氷にこだまする、アイヌの子守唄	183-190	音楽之友社	東京
			『日本の音 III 声の音楽 3』			
所収書はカセットブック(カセットテープ2本付録、「イヨンノッカ」収録あり)。1996年にCDブック版(CD盤2枚付録)刊行。						
89	小林幸男	1988年3月15日	奏でてみよう、アイヌの楽器《ムクン》	246-252	音楽之友社	東京
			『日本の音 IV 楽器の音楽』			
所収書はカセットブック(カセットテープ2本付録、「ムクン」収録あり)。1996年にCDブック版(CD盤2枚付録)刊行。						
90	小林幸男・小林公江	1987年3月31日	北海道アイヌの歌の諸相	40-55	日本民俗舞踊研究会	東京
			『北海道アイヌ古式舞踊』			
所収書については3 (1) 194参照。1985~86年の調査及び3 (1) 202に掲載の採譜に基づく論考。発声法や音楽形式その他に関する新たな指摘・見解。						
91	小林幸男・小林公江	1987年3月	楽譜の凡例	17-19		
			『北海道アイヌ古式舞踊連合保存会(編) 北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』			
3 (1) 202に掲載の楽譜の凡例だが、伝統的な声の技巧各種の記載方法を提示しており、以後のアイヌ音楽研究における採譜にも影響。						
92	近藤鏡二郎	1961年12月30日	アイヌのユーカラ 沙流地方の伝承を主として	13-19	音楽之友社	東京
			『音楽学』7-1			
掲載誌は音楽学会(現・日本音楽学会)の会誌。3 (1) 94に再取。						
93	近藤鏡二郎	1962年9月30日	"アイヌ民俗歌謡"研究の概要	62-63	誠文堂新光社	東京
			『季刊民族学研究』26-4			
掲載誌は日本民族学協会の季刊の会誌。						
94	近藤鏡二郎(著)・アイヌ民謡研究会(編)	1960年	『民謡と解説物語 アイヌの歌』	63	全音楽譜出版社	東京
近藤自身の採録・採譜に基づく楽譜集だが、歌詞は近藤による訳詞のみ、アイヌ語歌詞の記載なし。						
95	近藤鏡二郎(著)・アイヌ民謡研究会(編)・門別町郷土史研究会(編)	1962年8月10日	『アイヌのユーカラ 沙流地方の伝承』	25	音楽之友社	東京
3 (1) 91の論文のほか、「郷土アイヌの民俗歌謡 ユーカラの伝承」(門別町報、1961年8月~12月に連載)、「神々の歌「カムイ・ユーカラ」」「英雄詩曲「ラッコ退治」」を追加して刊行。						

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名 webページ名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
96	近藤鏡二郎・富田歌萌	1961年12月25日	アイヌ民族楽器「トンコリ」 『北海道の文化』1	62-63	北海道文化財保護協会	札幌
97	近藤鏡二郎・富田歌萌	1963年	アイヌの弦楽器“トンコリ” 『音楽学』9-1	13-21	音楽之友社	東京
掲載誌は音楽学会（現・日本音楽学会）の会誌。						
98	阪口諒	2021年11月	オノマトベに由来するアイヌ語の語彙 —鷹部屋福平「アイヌ民族に存する音の名称 に関する研究」を事例とした語彙集— researchmap https://researchmap.jp/SAKAGUCHI_Ryo/misc/36156523	18	阪口諒	2024/2/1
私家版。3 (1) 130を基にした語彙集、アイヌ語のオノマトベに関する論考など。発行地については記載なし。						
99	笹谷榮一朗	1935年12月	アイヌの音楽に就て 『音楽』16	29-33	東京音楽学校校友会	東京
東京音楽学校（現・東京藝術大学音楽学部）の校友会誌。笹谷榮一朗は北海道出身のテノール歌手・作曲家・音楽教育家。						
100	笹森建英	2011年3月17日	上田秋成と蝦夷楽器 『弘学大語文』37	1-6	弘前学院大学国語国文学会	弘前
101	サベジ, パトリック・エバン	2014年1月	『音楽と遺伝子からみた日本列島への民族移動 —アイヌ音楽の事例を中心に—』 Researchgate https://www.researchgate.net/publication/290911598_yinletoyichuanzikaramitaribenliedao_henominzuyidongainuyinlewozhongxinni_Music_genes_and_the_peopling_of_Japan_With_special_reference_to_the_music_of_the_Ainu	84	東京藝術大学	2024/2/8
修士論文（東京藝術大学大学院音楽研究科）。アイヌ音楽に関する「三重構造モデル」の提案と検証。3 (2) 24に繋がる論考。						
102	更科源蔵	1985年5月30日	アイヌのわらべ歌 松本達雄・更科源蔵 『日本わらべ歌全集1 北海道のわらべ歌』	115-205	柳原書店	京都
掲載の楽譜は3 (1) 191の日本放送協会編（1965）からの転載。						
103	『四宅ヤエの伝承』刊行会 （編）	2007年2月20日	『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 歌謡・散文編』	274	『四宅ヤエの伝承』刊行会	釧路
本書テキストの元となる音声資料を取めた同名のCD（5枚組）が同時刊行されている。						
104	『四宅ヤエの伝承』刊行会 （編）	2011年2月21日	『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編1』	236	『四宅ヤエの伝承』刊行会	釧路
本書テキストの元となる音声資料を取めた同名のCD（3枚組）が同時刊行されている。						
105	『四宅ヤエの伝承』刊行会 （編）	2012年2月29日	『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編2』	236	『四宅ヤエの伝承』刊行会	釧路
本書テキストの元となる音声資料を取めた同名のCD（4枚組）が同時刊行されている。						
106	篠原智花	2004年12月20日	トンコリの演奏にみられる前世代の演奏者との共通点について 『Itahcara（イタハチャラ）』4	1-10	『Itahcara』第4号編集 事務局 田村将人	千葉
107	篠原智花	2006年12月1日	rekuhkaraの伝承についての考察 『Itahcara（イタハチャラ）』5	31-35	『Itahcara』第5号編集 事務局 北原次郎太	白老

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	URL	所収書名・掲載誌名	最終閲覧年月日			
108	篠原智花	2006年3月9日	北方民族の音楽を追って				
			『アークティック・サークル』62		14-17	財団法人北方文化振興協会	網走
109	篠原智花・笹倉いる美	2007年3月22日	北海道立北方民族博物館所蔵の田辺尚雄氏樺太調査関連資料について (1)				
			『北海道立北方民族博物館研究紀要』16		77-98	北海道立北方民族博物館	網走
	J-STAGE>北海道立北方民族博物館研究紀要		https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hoppohmbulletin/16/0/_contents/-char/ja				2024/2/1
田辺尚雄による樺太での採録調査 (3 (1) 137) の記録資料の翻刻等。							
110	篠原智花・笹倉いる美	2008年3月28日	北海道立北方民族博物館所蔵の田辺尚雄氏樺太調査関連資料について (2)				
			『北海道立北方民族博物館研究紀要』17		59-72	北海道立北方民族博物館	網走
	J-STAGE>北海道立北方民族博物館研究紀要		https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hoppohmbulletin/17/0/_contents/-char/ja				2024/2/1
田辺尚雄による樺太での採録調査 (3 (1) 137) の記録資料の翻刻等。							
111	篠原智花・丹菊逸治	2007年7月30日	サハリンの口琴再考				
			『itahcara (イタハチャラ)』6		13-20	『itahcara』第6号編集事務局 北原次郎太・田村雅史	白老
112	篠原智花・丹菊逸治	2013年3月31日	トンコリはどこからきたか				
			『飛ノ台史跡公園博物館紀要』10		1-8	船橋市飛ノ台史跡公園 船橋博物館	
トンコリが擦弦楽器であった可能性について検討する論考。							
113	篠原智花・丹菊逸治	2020年3月31日	既存資料から考える樺太アイヌの口琴演奏				
			『日本民族音楽研究所紀要』1 (日本とアジアの口琴)		217-236	日本民俗音楽研究所	東京
114	下村五三夫	1994年12月1日	アイヌ民族の口琴と喉遊びについて				
			『口琴ジャーナル』8		23-27	日本口琴協会	上尾
115	下村五三夫	1996年8月31日	声を出すアイヌの口琴奏法及び喉借り遊びの音声合成原理について				
			『小樽商科大学人文研究』92		37-78	小樽商科大学	小樽
許諾の関係でウェブ上の「小樽商科大学学術成果コレクション」>『小樽商科大学人文研究』では公開されていない (2024年2月現在)。							
116	下村五三夫	2000年9月29日	アイヌ発声口琴風習の基層を探る				
			『小樽商科大学人文研究』100		83-127	小樽商科大学	小樽
許諾の関係でウェブ上の「小樽商科大学学術成果コレクション」>『小樽商科大学人文研究』では公開されていない (2024年2月現在)。							
117	下村五三夫 (編・著)	2003年6月27日 *	『アイヌ発声口琴習俗の研究』		183	下村五三夫/制作:ノース・アカデミー	北見
*奥付に発行年月日なし、「はじめに」に記載された年月日。							
118	下村五三夫、伊藤大介	2008年3月10日	樺太アイヌの喉交換遊びレクッカラについて				
			『人間科学研究』4		13-62	北見工業大学	北見
	北見工業大学学術機関リポジトリ		https://kitami-it.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search_type=2&q=65				2024/2/1

甲地利恵（編） アイヌ音楽に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
119	ジョルダニア, ジョーゼフ (著)、森田稔 (訳)	2017年4月18日	アイヌのポリフォニーの秘密				
	ジョルダニア, ジョーゼフ (著)、森田稔 (訳)		『人間はなぜ歌うのか？人類の進化における「うた」の起源』	54-56	アルク出版企画	東京	
	原著については3 (2) 15を参照。						
120	市立釧路図書館司書部 (編)	1952年12月15日	『アイヌ 古代舞踊の研究 一附・アイヌ古代舞踊見学記』		56	市立釧路図書館 (代表) 佐藤直太郎	釧路
	市立釧路図書館 (当時) が主催した、釧路地方のアイヌ舞踊の伝承者ら14名による実演が行われた「アイヌ古代舞踊研究会」(1952年8月6日開催)の記録ほか。ガリ版刷り。民俗芸能の研究者である本田安次は、この研究会に参加・実見したことを、3 (1) 209・210で記している。						
121	菅野道雄・石田久大	2011年8月31日	中学校音楽科授業におけるアイヌ歌謡の教材化				
	北海道教育大学 (編)		『北海道教育大学研究紀要』61-1	217-225	北海道教育大学	札幌	
	北海道教育大学学術リポジトリ		https://doi.org/10.32150/00005984				2024/2/20
122	鈴木紀美代	2019年4月	『父からの伝言』		47	鈴木紀美代	釧路
	「ムックリの製作」(p.46) 「ムックリが出来上がるまでの工程」(同前) ほかムックリの製作や伝承に係る記述。付録CD (1枚) には著者による演奏を収録。						
123	須藤武子	1985年3月31日	カラフトアイヌ古式舞踊：舞踊の特徴				
	日本民俗舞踊研究会 (編)		『カラフトアイヌ古式舞踊』	97-100	日本民俗舞踊研究会	東京	
	所収書については3 (1) 193を参照。						
124	須藤武子・増田良以	1985年3月31日	舞踊譜				
	日本民俗舞踊研究会 (編)		『カラフトアイヌ古式舞踊』	79-96	日本民俗舞踊研究会	東京	
	所収書については3 (1) 193を参照。						
125	須藤武子・増田良以	1987年3月31日	アイヌ古式舞踊一舞踊の記録一				
	日本民俗舞踊研究会 (編)		『北海道アイヌ古式舞踊』	59-126			
	所収書については3 (1) 194を参照。						
126	諏訪良光・水口成子	2000年3月31日	天然繊維を使ったトンコリの弦の製作法				
			『標茶町郷土館報告』12	1-6	標茶町郷土館	標茶	
127	関根秀樹	1992年1月23日	ムックリ				
	関根秀樹		『竹でつくる楽器』	54-55	創和出版	東京	
	「シリーズ・親と子でつくる」15。						
128	関根秀樹	1993年6月10日	ムックリ				
	関根秀樹		『民族楽器をつくる』	45-48	創和出版	東京	
	2003年に新版 (サブタイトル「音と楽器のミンゾク学」追加) 発行。						
129	高橋美樹	2021年3月	田辺尚雄によるアジア・沖縄の民族音楽調査一録音テクノロジーの発達を視点として一				
			『高知大学教育学部研究報告』81	219-262	高知大学	高知	
	高知大学>教育学部研究報告		https://akebono.ei.kochi-u.ac.jp/organization/repository/v81.html				2024/2/1
	「5. 1923 (大正12) 年7月：樺太アイヌの音楽調査」(p.233-236)。						
130	鷹部屋福平	1941年3月10日	アイヌ民族の使用したる計量の単位並に「音」の名称に関する研究				
			『北方文化研究報告』4	113-200	北海道帝国大学北方文化研究室	札幌	
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3564391				2024/2/20
	国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 (要ログイン)。なお3 (1) 98の阪口 (2021) も参照されたい。						

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第9号 2024年

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	URL	所収書名・掲載誌名				
131	直川礼緒	1993年9月6日	ムックリのルーツを探る！名称・形態・素材からたどる世界の口琴との結びつき				
	石井慎二（編）		『別冊宝島EX アイヌの本』		80-81	宝島社	東京
132	直川礼緒	1994年5月20日	日本の口琴の源流				
	小島美子・藤井知昭（編）		『日本の音の文化』		465-484	第一書房	東京
	日本における3種類の口琴（「アイヌ民族のムックリ」「江戸のびやぼん」「平安期の大宮の口琴」）についての論考。						
133	直川礼緒	2005年12月1日	『口琴のひびく世界』		188	日本口琴協会	上尾
	付録CD（1枚）あり。						
134	直川礼緒	2016年3月	日本の博物館収蔵の樺太（サハリン）アイヌの金属製口琴				
			『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1		1-22	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター	札幌
	北海道博物館>北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要		https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/publication/bulletin_acrc_vol1/				2024/2/20
	日本国内の博物館が所蔵するアイヌの金属製口琴について、情報を整理し、問題を抽出し、さらなる新情報も加えて比較検討する論考。						
135	田邊尚雄	1925年1月1日	樺太アイヌの音楽と舞踊				
			『國學院雑誌』31（1）（365）（大正14年1月号）		17-24	國學院大學	東京
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3365007/1/13				2024/2/1
	国立国会図書館デジタルコレクション から閲覧可能（要ログイン）。						
136	田邊尚雄	1926年2月10日	アイヌ人の音楽と舞踊				
	田邊尚雄		『日本音楽の研究』		106-118	京文社	東京
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/968183/1/257				2024/2/20
	国立国会図書館デジタルコレクション からログインなしで閲覧可能。						
137	田邊尚雄	1927年	樺太土人の音楽				
	田邊尚雄		『島国の唄と踊り』		113-168	磯部甲陽堂	東京
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1226529/1/72				2024/2/20
	1923年に田邊が行った採録調査の詳しい紀行文。国立国会図書館デジタルコレクションから閲覧可能（要ログイン）。						
138	田辺尚雄	1982年12月25日	樺太アイヌ、ギリヤーク、オロッコ音楽調査				
	田辺尚雄		『続田辺尚雄自叙伝』		197-207	邦楽社	東京
	3（1）137の田邊（1927）の内容を踏襲しつつ、自叙伝の1章として改稿掲載。						
139	谷本一之	1958年3月25日	アイヌの五弦琴				
			『北方文化研究報告』13		243-270	北海道大学	札幌
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3564400				2024/2/20
	アイヌ音楽研究者としての谷本の最初の論考。p.270「あとがき」に当時の北海道大学の知里真志保（アイヌ語学）・遠藤宏（音楽史学ほか）への謝辞。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。						
140	谷本一之	1960年3月25日	アイヌの口琴				
			『北方文化研究報告』15		63-77	北海道大学	札幌
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3564402/1/34				2024/2/20
	国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。						
141	谷本一之	1963年2月25日	アイヌの労働歌—アイヌ音楽の社会的背景—				
			『音楽学』8		106-108	音楽之友社	東京
	掲載誌は音楽学会（現・日本音楽学会）の会誌。						

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名 webページ名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
142	谷本一之	1963年3月	アイヌ音楽音組織の研究 『科学研究報告』4	56-58	北海道	札幌 昭和35年度補助の研究報告。成果は3 (2) 30TANIMOTO (1966) など。
143	谷本一之	1984年7月10日	エスキモー・アイヌ・日本—北方諸民族の音と文化の系譜 『現代思想七月臨時増刊号』12-8	248-255	青土社	東京 臨時増刊の副題は「総特集 ニッポンの根っこ」。北方諸民族の音楽の比較研究の方法論や着眼点、課題などについて。
144	谷本一之	1985年3月1日	アイヌの歌と踊り 『月刊 言語』14-3 (1985年3月号)	82-86	大修館書店	東京 同じ著者によるコラム「イフムケとレクツカラ」(p.67) も同号（「特集・アイヌの言葉と文化 文化篇」）に掲載。
145	谷本一之	1985年5月20日	北方アジアの音楽 藤井知昭（編）『日本音楽と芸能の源流』	239-250	同じ著者によるコラム「イフムケとレクツカラ」(p.67) も同号（「特集・アイヌの言葉と文化 文化篇」）に掲載。	東京 国立民族学博物館による1982年開催のシンポジウム「日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅢ—音楽と芸能—」での研究発表の内容。谷本のこの発表を受けての討論も掲載 (p.251-256)。
146	谷本一之	1986年3月25日	北方諸民族の生活と芸能—寒い国のさらに寒い地方の歌と踊り— 『早稲田大学語学教育研究所紀要』32	56-79	早稲田大学語学教育研究所	東京 国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/7945119/1/31 2024/2/20 講演の記録。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。
147	谷本一之	1987年3月31日	ピウスツキ蠟管の音楽的内容 加藤九祚・小谷凱宣（編）『国立民族学博物館研究報告別冊』5 (ピウスツキ資料と北方諸民族文化の研究)	267-271	国立民族学博物館	吹田 国立民族学博物館学術情報リポジトリ https://minpaku.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=2&q=340 2024/2/13 ピウスツキ (1866-1918) による録音 (蠟管) 内容についての報告書。
148	谷本一之	1989年4月20日	音楽表現と共同体意識—北方諸民族の場合— 蒲生郷昭・柴田南雄・徳丸吉彦・平野健次・山口修・横道萬里雄編『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽 7 研究の方法』	183-200	岩波書店	東京
149	谷本一之	1989年9月8日	アイヌ音楽 蒲生郷昭・柴田南雄・徳丸吉彦・平野健次・山口修・横道萬里雄編『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽 別巻I 手引と資料』	121-132	岩波書店	東京
150	谷本一之	1994年2月28日	鶴の踊り サロルン・リムセ 北方言語研究者協議会（編）『アイヌ語の集い 《知里真志保を継ぐ》』	89-101	北海道出版企画センター	札幌
151	谷本一之	1995年7月21日	アイヌの熊送りの芸能的要素 株式会社たおフォーラム（編）『「東アジアにおける民俗と芸能」国際シンポジウム論文集』	67-70	「東アジアにおける民俗と芸能」国際シンポジウム論文集刊行委員会	東京 1994年に開催されたシンポジウムの報告書。全論文を日本語・英語・中国語（簡体）の3言語で掲載。本論文の中国語版（表題「阿伊努族“送熊”的表演要素」）はp.157-159、英語版は (3 (2) 37) はp.259-262。
152	谷本一之	2000年6月10日	『アイヌ絵を聴く—変容の民族音楽誌』	本文：351、索引等：14	北海道大学図書刊行会	札幌 3 (1) 191の日本放送協会編 (1965) を民族誌的現在に据え、描かれた図像からアイヌ音楽の変容を論じる。付録CD (1枚) あり。本作で第54回毎日新聞出版文化賞 (2000年)、第18回田辺尚雄賞 (2000年度、東洋音楽学会)。

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
備考	所収編著者 webページ名	URL				
153	谷本一之	2001年3月10日	アイヌとハンガリーのロマ 歌いつがれた曲から見えてくる社会			
			『アエラムック 音楽がわかる。』	35-38	朝日新聞社	東京
	ロマとアイヌの共同体のあり方と音楽ジャンルの様態についての記事。					
154	谷本一之	2001年7月1日	アイヌの芸能—和風化のプロセス			
			『白い国の詩』2001年7月号	4-11	創童舎(制作)、東北電力株式会社地域交流部(発行)	仙台
155	田村すず子	1973年	アイヌの民謡			
			『ILT NEWS』51・52	43-62	早稲田大学語学教育研究所	東京
	歌詞1行を5音節に整えるための言語的な工夫(技法)について、「音節数の調整」(p.56-58)にまとめ。					
156	田村すず子	1987年3月25日	『アイヌ語音声資料4 福満・鷓川の歌謡』(解説書)	109	早稲田大学語学教育研究所	東京
	p.4-12に「アイヌの歌謡について」。音声資料(カセットテープ)あり。					
157	田村すず子	1988年3月25日	『アイヌ語音声資料5 二風谷の昔話と歌謡・神謡』(解説書)	111	早稲田大学語学教育研究所	東京
	音声資料(カセットテープ)あり。					
158	田村すず子	1996年5月30日	『アイヌ語音声資料選集 韻文編』	*	早稲田大学語学教育研究所	東京
	*序、はしがきはか:28(ローマ数字で記載)、本文:86。音声資料(カセットテープ)あり。p.xv-xxiv「韻律と表現—歌われる韻文の言葉—」所収。					
159	田村将人	2003年12月20日	「もんべつ流氷まつり」における樺太アイヌの芸能活動に関する新聞資料*			
			『itahcara(イタハチャラ)』2	42-48	『itahcara』第2号編集事務局 代表 北原次郎太	千葉
160	丹菊逸治	2018年8月25日	『アイヌ叙景詩鑑賞 押韻法を中心に』	283	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌
	アイヌ・先住民言語アーカイブ・プロジェクト報告書。					
161	丹菊逸治	2020年3月25日	『アイヌ韻文の行頭韻』	127	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌
	2019年度アイヌ・先住民言語アーカイブ・プロジェクト報告書。					
162	丹菊逸治	2021年3月25日	『18世紀アイヌ 押韻文』	77	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌
	2020年度アイヌ・先住民言語アーカイブ・プロジェクト報告書。					
163	丹菊逸治	2021年3月25日	『アイヌ韻文の朗唱法 カムイユカラの抑揚生成』	312	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌
	アイヌ・先住民言語アーカイブ・プロジェクト報告書。					
164	千葉伸彦	1992年	映像に見るトンコリ —藤山ハルの奏法について			
	奥田統己(編)		『ウエネウサラ』10	19-40	*	江別
	*奥付に発行所(者)の記載なし。					
165	千葉伸彦	1996年2月17日	藤山ハルのトンコリ演奏法について(1)			
	萩中美枝・宇田川洋(編)		『北海道東部に残る樺太アイヌ文化I』	9-100	常呂町樺太アイヌ文化保存会	常呂

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名 webページ名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
166	千葉伸彦	1996年2月17日	藤山ハルのトンコリ演奏の内容についてー演奏の解説と演奏モチーフの考察ー 秋中美枝・宇田川洋（編） 『北海道東部に残る樺太アイヌ文化Ⅰ』	101-137	常呂町樺太アイヌ文化保存会	常呂
167	千葉伸彦	1996年3月15日	長嵐イソのトンコリ 秋中美枝・宇田川洋（編） 『北海道の文化』68	84(1)-50(35)	北海道文化財保護協会	札幌
168	千葉伸彦	1996年8月20日	アイヌの歌の旋律構造について 『東洋音楽研究』61 J-STAGE>東洋音楽研究 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/toyoongakukenkkyu1936/1996/0/_contents/-char/ja	1-21	東洋音楽学会	東京 2024/2/1
アイヌの歌謡における音色（発声法）を旋律の装飾ではなくそれ自体が旋律の主要な構成要素であることを指摘した論考。						
169	千葉伸彦	1996年8月31日	樺太アイヌの音楽 財団法人アイヌ民族博物館（編） 『樺太アイヌー児玉コレクションー』	49-56	財団法人アイヌ民族博物館	札幌
財団法人設立20周年記念・第11回企画展図録。アイヌ伝統音楽の新たな分類案を示している。						
170	千葉伸彦	1996年9月10日	ヘタク トンコリ アレット ロー 『パルンベ』9	23-29	千葉大学文学部中川研究室	千葉
171	千葉伸彦（編・著）	2007年2月1日	『小泉文夫録音 西平ウメ演奏・解説によるトンコリ演奏法』	184	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	藤沢
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構平成18年度研究助成事業報告書。同財団の『アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告』第7号（2008:1-184）に再掲・所収。3（1）67の甲地編（2001）より詳しく正確。						
172	千葉伸彦	2009年2月19日	『阿寒のうた（ウポボ）ー20年度調査記録／楽譜篇ー』	124	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	札幌
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構平成20年度研究助成事業報告書。						
173	千葉伸彦（編・著）	2011年3月10日	『久保寺逸彦の収録したトンコリ楽曲の基礎資料（五線譜を含む）』	158	千葉伸彦	藤沢
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構平成22年度研究助成事業報告書。『アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告』11（2012:277-418）に再収、ただし一部改稿・改編あり。またp.418奥付ではタイトルの（ ）内は「五線譜」、発行日は「2011年3月4日」になっている。						
174	千葉伸彦	2012年2月29日	『阿寒のうた（ウポボ）』	171	クルーズ	札幌
声の技巧の記述を意識した詳細な採譜を多数掲載。著者が阿寒で採録した演奏を多数収録したCD（2枚）を付録。						
175	千葉伸彦	2013年	『グローバル化の進む現代における口頭伝承音楽の伝習ーアイヌの歌の伝承を活性化するためにー』	（未確認）	放送大学	（未確認）
修士論文（放送大学文化情報学プログラム）。						
176	千葉伸彦	2014年	アイヌの音楽文化と口頭伝承音楽の記述 東京音楽大学付属民族音楽研究所（編） 『阿寒のうた（ウポボ）をめぐってー伝統音楽の五線表現の視点からー』 東京音楽大学付属民族音楽研究所>公開講座 https://tcm-minken.jp/course_exhibition/20140126.html	5-8	東京音楽大学付属民族音楽研究所	東京 2024/2/14
東京音楽大学付属民族音楽研究所 2013年度公開講座No.5 パンフレット。当日上演のアイヌ文化保存会による「曲目解説」（p.9-16）。上記ウェブサイト当日の動画あり。						
177	千葉伸彦	2015年	アイヌのrekukharaの復元に向けた録音資料の分析 中国新疆芸術学院（編） 『第11回日中音楽比較国際学会検討会 論文集』	202-209	中国新疆芸術学院	新疆
2015年11月に中国・新疆省の新疆芸術学院で開催された学術会議の予稿集に掲載。						

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	最終閲覧年月日			
178	千葉伸彦	2017年3月1日	アイヌの歌唱における呼気摩擦音の用法 『音楽文化学論集』7	107-117	東京藝術大学大学院音楽研究科	東京
掲載誌は東京藝術大学大学院音楽文化学専攻博士後期課程研究論文集。						
179	千葉伸彦	2018年3月20日	『日川キヨ姫の音楽伝承(歌とムックリと心と)』	386	千葉伸彦	藤沢
公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構2017年度研究助成事業報告書。						
180	千葉伸彦	2019年3月31日	『アイヌの歌の伝承をサポートするメソッド 一口頭伝承音楽の現代に適応した学習方法を 探る』	*	東京藝術大学	東京
東京藝術大学リポジトリ		https://geidai.repo.nii.ac.jp/records/905				2024/2/14
*本編：325、附録1：387、附録2：172、附録3：29。平成30年度博士論文（東京藝術大学）。上記ウェブサイトは要旨のみ。						
181	千葉伸彦・酒井真由美・酒井真理・長岡小百合・吉根加奈・柴田多恵子・恵原詩乃・宇佐恵美・大野徹人	2020年2月28日	『荒田マツエ姫の音楽伝承』	347	千葉伸彦	藤沢
公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構2019年度研究助成事業報告書。編著者名は表紙ではなく奥付の記載に従った。						
182	知里真志保	1948年4月か	『アイヌの歌謡 第一集』	*	日本放送協会	東京
*本文：24、口絵：2、文献索引等：10。『知里真志保著作集2』（1973、平凡社）p.299-322に口絵と文献索引を省略して再収。発行年月は推定（前掲書解題による）。						
183	知里真志保	1960年10月	『アイヌに伝承される歌舞詞曲に関する調査研究』	98	文部省文化財保護委員会	東京
国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1670792				2024/2/21
文化財委託研究報告Ⅱ。『知里真志保著作集2』（1973、平凡社）p.3-135に再収。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。						
184	富田歌萌	1966年3月10日	アイヌの弦楽器 “トンコリ” 『北海道の文化』10	1-24	北海道文化財保護協会	札幌
185	富田友子（採録・採譜・解説）、丹菊逸治・篠原智花（編集）	2012年3月20日	『西平ウメ伝承 トンコリ楽曲集』	79	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌
後に3（1）187として加筆修正・再編して出版された。						
186	富田友子	2014年3月20日	『トンコリの世界』	80	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌
丹菊逸治・篠原智花（編）。北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット第2号。2017年に同第7号として英訳版（3（2）43）。						
187	富田友子（採録・採譜・解説）、富田俊郎（編集）	2015年12月1日	『西平ウメ伝承 トンコリ楽曲集と演奏法』	88	retroAFE	さいたま
3（1）185を加筆修正・再編し出版。						
188	中川裕	2009/11/15	アイヌの歌謡 『國學院雑誌』110-11	320-333	國學院大學	
189	長根あき	2000年10月1日	『ムックリの音・私の音』	28	三文双書	札幌
カセットテープ（1巻）付録。ムックリの演奏技巧とくに音を共鳴させる身体内の部位の使い方について、演奏体験を踏まえ具体的に解説。						

甲地利恵（編） アイヌ音楽に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
190	ナティエ, ジャン=ジャック (著)、添田明子 (訳)	2005年3月20日	ドビュッシー・イヌイト・アイヌ			
	ナティエ, ジャン=ジャック (著)、添田明子 (訳)		『音楽・研究・人生 音楽と言語をめぐる仮想対話』	116-140	春秋社	東京
	原著はNattiez, Jean-Jacque "La Musique, La Recherche et La Vie", Leméac Éditeur Inc., Montréal, 1999/2004. (※編者は原著未入手のため3 (2) には掲載していない)					
191	日本放送協会 (編)	1965年3月30日	『アイヌ伝統音楽』	566	日本放送出版協会	東京
	日本放送協会札幌放送局による「アイヌ伝統音楽収集整備計画」(昭和36~38年度)による事業成果。本文の執筆者のうち、民俗的事項については更科源蔵、音楽学的事項については谷本一之が担当。採譜は谷本一之、増田又喜。録音シート(4枚8面)の付録。					
192	日本民俗音楽研究所 (編)	2020年3月31日	『日本民俗音楽研究所紀要 第1号 日本とアジアの口琴』	348	日本民俗音楽研究所	東京
	直川礼緒(編集責任)、日本口琴協会(協力)。3 (1) 113の篠原・丹菊(2020)のほか、木原仁美「アイヌ民族 ムックリの思い出」(p.211-216)、第8回国際口琴大会(ドイツ2014)参加報告などが掲載されている。					
193	日本民俗舞踊研究会 (編)	1985年3月31日	『カラフトアイヌ古式舞踊』	106	日本民俗舞踊研究会	東京
	昭和59年度文化財国庫補助事業調査報告書。事業者は日本民俗舞踊研究会。金谷フサ(1921~1986)さんの伝承する、樺太アイヌの伝統的な歌や踊りを記録。					
194	日本民俗舞踊研究会 (編)	1987年3月31日	『北海道アイヌ古式舞踊』	149	日本民俗舞踊研究会	東京
	昭和61年度文化財国庫補助事業調査報告書。日本民俗舞踊研究会による、1984年に国の重要無形民俗文化財の指定を受けた「アイヌ古式舞踊」の道内8保持団体を対象とした調査・記録。					
195	貫塩喜蔵(著)、白糠アイヌ 文化保存会 (編)	2007年11月1日	『「サコロペ」の研究』	199	白糠アイヌ文化保存会	白糠
	貫塩喜蔵『サコロペ(狐の妖怪)』(1978、白糠町、カセットテープ付き)を対象とした白糠アイヌ文化保存会による研究成果。同名のCD(2枚組)同時刊行。					
196	萩中美枝	1996年3月31日	アイヌの歌謡			
			『口承文藝研究』19	90-101	日本口承文芸学会	東京
	日本口承文芸学会>機関誌『口承文藝研究』		https://ko-sho.org/page/activity/kikanshi/kikanshi-2000.html			2024/2/21
	「まつり歌」の項目では「ウコウク」での2人目以後の歌い手の入り方や2人目の歌い手の役割の重要性など、歌われた現場での観察に基づく具体的な記述ほか。					
197	伴野有市郎	1986年3月	戦後まもない頃のアイヌ歌謡のレコード			
			『参考書誌研究』31	71-74	国立国会図書館	東京
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3051228			2024/2/21
	日本放送協会(編・制作)(1948・1949)の収録内容の総目次。国立国会図書館デジタルコレクションでログインなしで閲覧可能。					
198	伴野有市郎	1991年3月	続・戦後間もない頃録音されたカラフト・アイヌの歌謡 —NHK制作の準長時間SPレコード—			
			『参考書誌研究』39	84-86	国立国会図書館	東京
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3051315			2024/2/21
	日本放送協会(編・制作)(1951)の収録内容の総目次。国立国会図書館デジタルコレクションでログインなしで閲覧可能。					
199	東村岳史	2001年3月22日	「文化財」としての「アイヌ古式舞踊」			
			『解放社会学研究』15	98-118	日本解放社会学会	京都
200	樋口博子	1966年12月	アイヌ民族舞踊の文化史的考察			
			『愛知県立大学文学部論集』17	157-171	愛知県立大学文学部	名古屋
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1766634			2024/2/21
	国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能(要ログイン)。					

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第9号 2024年

通し番号	編者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地
	所収編者名 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	最終閲覧年月日			
201	檜山みどり	1962年6月25日	アイヌ楽器 ムックリについて			
			『北海道地方史研究』43	7-14	北海道地方史研究会	札幌
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/2205227			2024/2/21
	国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。					
202	北海道アイヌ古式舞踊連合保存会（編）	1987年3月	『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』	244	北海道アイヌ古式舞踊連合保存会	札幌
	昭和60年度北海道アイヌ古式舞踊連合保存会委託事業。日本民俗舞踊研究会が実施した「アイヌ古式舞踊」の調査（3（1）194を参照）をもとに作成した舞踊譜・楽譜を掲載。					
203	北海道教育委員会（編）	1989年3月	『北海道の民謡―民謡緊急調査報告書―』	232	北海道教育委員会	札幌
	昭和62～63年度に実施された「北海道民謡緊急調査」の報告書。谷本一之執筆の「第四章 北海道民謡について（アイヌ）」（p.31～33）、「第六章 北海道民謡の調査地区別民謡（アイヌ）」（p.181～207）。					
204	北海道教育委員会（編）	1991年3月	『平成2年度 アイヌ古式舞踊調査報告（Ⅰ） 白糠・新冠・鶴川』	96	北海道教育委員会	札幌
	北海道教育委員会による、1984年に国の重要無形民俗文化財の指定を受けた「アイヌ古式舞踊」の8地域以外の地域を対象とした、舞踊の調査報告書。3か年の事業。3（1）205に続く。					
205	北海道教育委員会（編）	1992年3月	『平成3年度 アイヌ古式舞踊調査報告（Ⅱ） 様似・門別・千歳』	79	北海道教育委員会	札幌
	3（1）204の続き。3（1）206に続く。					
206	北海道教育委員会（編）	1993年3月	『平成4年度 アイヌ古式舞踊調査報告（Ⅲ） 三石・弟子屈・札幌・常呂』	130	北海道教育委員会	札幌
	3（1）204・205からの続き。					
207	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター（編）	2023年3月*	『アイヌ文化紹介小冊子 ポンカンピソシ 7 芸能』	32	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター	札幌
	北海道博物館>アイヌ文化を学びたい方へ>		https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/ainu-culture/			2024年3月5日
	*第4刷の発行年月。初版は2001年9月、旧・北海道立アイヌ民族文化研究センターによる刊行。					
208	北海道立アイヌ民族文化研究センター（編）	2005年6月30日	『旭川地方に伝承されるアイヌの座り歌・踊り歌についての調査研究』	84	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書2。付録CD（1枚）「旭川に伝わるアイヌ文化：座り歌・踊り歌」。					
209	北海道立アイヌ民族文化研究センター（編）	2009年3月25日	『鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽に関する調査研究』	71	北海道立アイヌ民族文化研究センター	札幌
	北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書5。付録CD（1枚）「鶴川に伝わるアイヌ文化：さまざまな歌謡」。					
210	本田安次	1992年11月3日	Ⅲ アイヌの舞踊			
	本田安次		『アジアの伝統芸能』	93-128	錦正社	東京
	第3章に「アイヌの古式舞踊」（初出北海道新聞1984年1月17日）、「アイヌの舞踊鳥獣」（初出を3（1）194としているが一部加筆修正か）、「アイヌの神観念と舞踊」（初出『民俗芸能研究』3、1986）、「アイヌ舞踊とヤッチキ踊」（初出『民俗芸能』63、1983）。					
211	本田安次	2000年3月30日	『本田安次著作集 日本の伝統芸能 第二 巻 日本の祭 アイヌの藝能 アジア探訪』	533	錦正社	東京
	3（1）210所収の「アイヌの舞踊鳥獣」の改稿か（初出は示されていない）。ほかに「アイヌの神観念と舞踊」（初出『民俗芸能研究』3、1986）、「アイヌ舞踊とヤッチキ踊」（初出『民俗芸能』63、1983）、「まじりも祭り」と熊送り」（初出『民謡と傳説』1、1977）を所収。					
212	増田又喜	1982年3月31日	アイヌ伝統音楽を尋ねて			
			『北海道の文化』46	6-17	北海道文化財保護協会	札幌
	3（1）216のP.7-49と関連。					
213	増田又喜	1982年9月30日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（二）			
			『北海道の文化』47	46-66	北海道文化財保護協会	札幌
	3（1）216のP.44-87と関連。					

甲地利恵（編） アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	最終閲覧年月日			
214	増田又喜	1995年2月15日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（三）	39-46	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』67			
3 (1) 216のP.87-98と関連。						
215	増田又喜	1996年3月15日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（四）	40-49	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』68			
3 (1) 216のP.98-114と関連。						
216	増田又喜	1996年8月20日	『アイヌ歌謡を尋ねて～私の場合～』	150	近代文芸社	東京
のちに3 (1) 223に改編して出版。						
217	増田又喜	1997年2月20日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（五）	84-92	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』69			
3 (1) 216のP.115-126と関連。						
218	増田又喜	1998年2月20日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（六）	91-98	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』70			
3 (1) 216のP.126-132と関連。						
219	増田又喜	1999年2月15日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（七）	85-95	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』71			
3 (1) 216のP.132-138と関連。金成マツ（1875～1961）さんの談話は3 (1) 216 (P.132) よりも詳しく記載している。						
220	増田又喜	2000年2月29日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（八）	55-62	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』72			
3 (1) 216のP.139-148と関連。						
221	増田又喜	2001年3月30日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（九）	48-55	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』73			
3 (1) 216のP.149と関連。						
222	増田又喜	2002年3月28日	アイヌ伝統音楽を尋ねて（十）	97-105	北海道文化財保護協会	札幌
			『北海道の文化』74			
223	増田又喜	2010年3月15日	『アイヌのふるさとに歌を求めて』	229	文芸社	東京
3 (1) 216を改題・改訂・加筆し、CD (1枚) を付録して刊行。						
224	柘谷隆男	1994年3月	世界の鹿笛―楽器の起源を探る	1-16	美幌博物館	美幌
			『美幌博物館研究報告』2			
225	柘谷隆男	1996年1月	楽器学からみた狩猟用具―鹿笛概説（その1）―	37-54	財団法人アイヌ無形文化伝承保存会	札幌
			『アイヌ文化』20			
226	柘谷隆男	1997年1月	楽器学からみた狩猟用具―鹿笛概説（その2）―	37-64	財団法人アイヌ無形文化伝承保存会	札幌
			『アイヌ文化』21			

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL					
227	栢谷隆男	1997年3月25日	樹皮トランペット型鹿笛の一考察—動物の擬声を作りだす四笛と音楽の起源				
			『北海道立北方民族博物館研究紀要』6		167-198	北海道立北方民族博物館	網走
	国立国会図書館デジタルコレクション		https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/4427117				2024/2/21
	国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能（要ログイン）。						
228	丸山隆司	2011年2月15日	アイヌ歌謡と音数律				
	岡部隆志・工藤隆・西條勉（編者）		『七五調のアジア 音数律から見る日本短歌とアジアの歌』		100-117	大修館書店	東京
	3 (1) 66・68を主な対象とした、アイヌ語韻文の音数律についての論考。						
229	村木美幸	1994年2月28日	ウポポ「アヨロコタン」を追う				
	北方言語研究者協議会（編）		『アイヌ語の集い 《知里真志保を継ぐ》』		81-88	北海道出版企画センター	札幌
230	門別町郷土史研究会（編）	1966年11月12日	『沙流アイヌの歌謡 解説』		66	門別町郷土史研究会	門別
	企画構成・執筆は近藤鏡二郎による。1959～1961年及び1965年に採録した音声資料（日高町立門別図書館郷土資料館及び北海道立図書館が所蔵）の目録及び解説。						
231	矢久保空遥	2015年7月	口琴の形態と音響的特徴に関する意匠形態学的研究		161	千葉大学	千葉
	千葉大学 学術成果リポジトリ		https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/101828/				2024/2/1
	博士論文。上記URLは要約のページ。						
232	矢久保空遥、田内隆利、久保光徳、寺内文雄	2015年7月31日	口琴の音に対する印象構造とその形態学的特徴				
			『デザイン学研究』62-2		1-6	一般社団法人日本デザイン学会	東京
	J-STAGE>デザイン学研究		https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssdj/62/2/_contents/-char/ja				2024/2/1
233	谷地田未緒	2022年9月30日	「アイヌ古式舞踊」の文化財指定の経緯に関する考察—知里真志保と本田安次の原稿から—				
			『国立アイヌ民族博物館研究紀要』1		114-131	国立アイヌ民族博物館	白老
	国立アイヌ民族博物館>調査研究>国立アイヌ民族博物館研究紀要		https://nam.go.jp/wp/wp-content/uploads/2022/12/10-yachita-r.pdf				2024/2/1
234	谷地田未緒・押野朱美	2021年4月20日	芸能の継承—「アイヌ古式舞踊」の保存継承をめぐる文化政策研究				
			『文化政策研究』14		138-154	日本文化政策学会	東京

(2) 欧文文献

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名	ページ	発行所	発行地
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL	備考			
1	BEAUDRY, Nicole	1985年	The Ainu Rekukara and the Eastern Arctic Inuit Katajjaq: A Comparison			
	Executive Committee of the International Symposium (ed.)		<i>Proceedings of THE INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON B. PILSUDSKI'S PHONOGRAPHIC RECORDS AND THE AINU CULTURE</i>	86-93	Hokkaido University (北海道大学)	札幌
	英語。国際シンポジウム「The International Symposium on B. PILSUDSKI's Phonographic Records and the Ainu Culture」(1985年9月、札幌)の報告書。					
2	CHIBA, Nobuhiko (千葉伸彦)	2008年10月	The music of the Ainu			
	TOKITA, Alison McQueen and HUGHES, David W. (ed.)		<i>The Ashgate research companion to Japanese music</i>	323-344	Ashgate	Hampshire
	英語。日本音楽全般について専門的に概説する全16章中の第14章。本体付録CD(1枚)のトラック33~40に、文中で言及した曲の音源が収録されている。					
3	CLAAR, Jack	2013年10月29日	<i>The Ainu Tonkori A Manual for Learning and Guide to Perform Practices</i>	60	Mizuyamasangyo Co. Ltd., Publishing Division	神戸
	英語。付録CD(1枚)。著者の日本国内でのトンコリ学習経験に基づくトンコリの概説及び教本。著者のオリジナル曲も1曲掲載している。					
4	COLLAER, Paul (コラール, ポール)	1956年	Sixteen Ainu Songs			
	COLLAER, Paul		<i>Les Colloques de Wegimont : cercle international d'etudes ethno-musicologiques</i>	195-205	Elsevier	Brussels
	英語(本文)、フランス語(要旨)。日本放送協会編(1948・1949・1951)からの16曲の採譜と概説。ただし譜面に歌詞は書かれていない。					
5	DIXON, J. M.	1882年	Notes to Illustrations			
			<i>The Chrysanthum: a Monthly Magazine for Japan and the Far East vol. 2</i>	*	R. Meiklejohn and Company	横浜
	*本文: 507-508、口絵: ノンブルで3ページ分。英語。当時の日本駐留の外国人向けの雑誌。アイヌの民具等の口絵の解説。図20の口琴('mokuni')、図22の五弦琴('tokari')の解説文は口絵の2ページ目。五弦琴については対雁で女性から購入したとの記載あり。					
6	FORLIVESI, Carlo (フォルリヴェジ, カーロ またはカルロ)	2005年9月29日	THE TRADITIONAL MUSIC OF THE AINU-NEW APPROACHES AND FINDINGS : Report on a research project on Ainu music, Hokkaido, Japan, 2004			
			『比較文化論叢: 札幌大学文化学部紀要』16	69-92	札幌大学	札幌
	札幌大学学術情報リポジトリ>比較文化論叢		https://sapporo-u.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search_type=2&q=514			2024/2/21
	英語。アイヌ音楽の特徴の一つとしてポリフォニー性に着目した論考。ただし検討の対象とした音源の録音年を「1929年」と誤解している点には注意を要する(実際には戦後~1950年代の録音を再編集したLP盤である。3(1)79の甲地(2018:81)参照)。					
7	GRAF, Walter (グラーフ, ヴァルター)	1967年	Zur gesanglichen Stimmgebung der Ainu			
	FINSCHER, Ludwig and MAHLING, Christoph-Hellmut (ed.)		<i>Festschrift für Walter Wiora zum 30. Dezember 1966</i>	529-535	Bärenreiter	Kassel
	ドイツ語。音楽学・音楽史学のW. ヴィオラ(1906-1997)の退官記念論文集に所収。アイヌ音楽の発声の特徴についてソナグラフを用いた計測結果とともに論じる。分析対象は日本放送協会編(1948・1949・1951)からのアンソロジーLP(3(2)23も参照)からの12曲。					
8	HUNTER, Justin R.	2015年8月	<i>Vitalizing Traditions: Ainu Music and Dance and the Discourse of Indigeneity</i>	*	University of Hawaii at Manoa	Manoa
	Academia		https://uark.academia.edu/JustinRHunter			2024/2/21
	*緒言ほか: 15(ローマ数字で記載)、本文: 258。英語。博士論文(ハワイ大学マノア校)。					
9	HUNTER, Justin R.	2011年	"Intangible Cultural Heritage" Recognition and Marginalization Through Traditional Ainu Dance in Japan	10	(未確認)	(未確認)
	Academia		https://uark.academia.edu/JustinRHunter			2024/2/21
	英語。					
10	HUNTER, Justin R.	2015年12月5日	"Following the Tracks": Ainu Understanding and Representation of Native Space in Music and Dance	8	(未確認)	(未確認)
	Academia		https://uark.academia.edu/JustinRHunter			2024/2/21
	英語。					
11	HUNTER, Justin R.	(不明)	Local Ainu Song, Global Indigenous Power: Claiming Indigenous Rights through Music Making in Ainu Mosir and Beyond	9	(未確認)	(未確認)
	Academia		https://uark.academia.edu/JustinRHunter			2024/2/21
	英語。					

編者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
		所収編者名	所収書名・掲載誌名			
備考	webページ名	URL				最終閲覧年月日
12 HUNTER, Justin R.	(不明)	Indigenous Creativity, Innovative Tradition: New Constructions of Ainu Performance Practice and Performative Space	11	(未確認)	(未確認)	
	Academia	https://uark.academia.edu/JustinRHunter				2024/2/21
英語。						
13 HUNTER, Justin R.	(不明)	Rocking Out Ainu: Reasserting Indigenous Identity Through New/Old Music and Grassroots Movements	10	(未確認)	(未確認)	
	Academia	https://uark.academia.edu/JustinRHunter				2024/2/21
英語。						
14 JORDANIA, Joseph (ジョルダニア, ジョーゼフ)	2006年1月1日	<i>Who Asked the First Question?: The Origins of Human Choral Singing, Intelligence, Language and Speech</i>	452	LOGOS	Tbilisi	
	Channel McGilchrist>links bibliography	http://channelmcgilchrist.info/archived-links-bibliography/				2024/2/21
英語。p.155-157に「Japan: Ainus」、p.247-251に「Case Study#9 Ainu polyphony」。						
15 JORDANIA, Joseph (ジョルダニア, ジョーゼフ)	2011年	<i>Why Do People Sing? Music in Human Evolution</i>	211	LOGOS	Tbilisi	
	Academia	https://www.academia.edu/19857947/Why_Do_People_Sing_Music_in_Human_Evolution				2024/2/12
英語。p.32-33に「Mystery of Ainu Polyphony」。邦訳は3 (1) 119。						
16 KŌCHI, Rie (甲地利恵)	2001年3月30日	On the variety of voices in the musics of Northern peoples : focusing on Ainu music (北方諸民族の音楽における声のいろいろ～アイヌ音楽を中心に～)				
	北海道立北方民族博物館 (編) Hokkaido Museum of Northern Peoples (ed.)	『第15回北方民族文化シンポジウム報告 北方諸民族文化のなかのアイヌ文化－儀礼・信仰・芸能をめぐって－』 <i>The Proceedings of the 15th International Abashiri Symposium</i>	1-5	財団法人北方文化振興協会	網走	
英語。2000年の第15回シンポジウムの報告書。筆者の講演内容を文章化したもの。アイヌ音楽の声の特徴について、極東シベリアの先住民族（チュクチ、コリヤークなど）の音楽と比較して論じる。3 (1) 72はこれに加筆修正のうえ日本語にしたもの。						
17 KŌCHI, Rie (甲地利恵)	2012年	On the polyphonic singing styles in Ainu traditional music and some recent changes				
	TSURTSUMIA, Rusudan and JORDANIA, Joseph (ed.)	<i>The 5th International Symposium of Traditional Polyphony</i>	104-112		Tbilisi	
	International Research Center for Traditional Polyphony	https://symposium.polyphony.ge/en/publications/v-symposium/ https://symposium.polyphony.ge/ფართოვარდო/v-ბიბლიოგრაფია/				2024/2/21
英語。ほかにジョージア（グルジア）語訳（p.97-103）も掲載。2010年にトビリシ市で行われたシンポジウムの予稿集。						
18 KŌCHI, Rie (甲地利恵)	2014年	The polyphonic aspect in the monophonic singing of Ainu traditional music				
	TSURTSUMIA, Rusudan and JORDANIA, Joseph (ed.)	<i>The 6th International Symposium of Traditional Polyphony</i>	267-276		Tbilisi	
	International Research Center for Traditional Polyphony	https://symposium.polyphony.ge/en/publications/vi-symposium-new/ https://symposium.polyphony.ge/ფართოვარდო/2723-2/				2024/2/21
英語。ほかにジョージア（グルジア）語訳（p.261-266）も掲載。2012年にトビリシ市で行われたシンポジウムの予稿集。						
19 KŌCHI, Rie (甲地利恵)	2021年3月18日	Ainu Traditional Music Recordings in the Historical Recordings Collection				
	National Diet Library, Japan>rekion	https://rekion.dl.ndl.go.jp/en/ongen_shoukai_16				2024/2/21
英語。国立国会図書館のウェブサイト内にある「歴史的音源」に掲載した解説文（3 (1) 80）の英語訳。英語版ページに掲載。						
20 MAMCHEVA, Наталья А. (MAMCHEVA, Natalya A.)	2021年	Ударные инструменты айнов (Ainu percussion instruments)				
	Институт филологии СО РАН.(ed.)	<i>Языки и фольклор коренных народов Сибири Выпуск 41 (2021 г.)</i>	32-46		Новосибирск	
	Institute of Philology of the Siberian Branch of Russian Academy of Sciences>Yazyki i fol'klor korennykh narodov Sibiri (Languages and Folklore of Indigenous Peoples of Siberia)	Федеральное государственное бюджетное учреждение науки Институт филологии Сибирского отделения Российской академии наук (Institute of Philology of the Siberian Branch of Russian Academy of sciences)				2024/2/21
ロシア語。アイヌの打奏楽器についての論考。いわゆる楽器のほか、歌ったり語ったりする際に打奏する音具も対象としている。シャマニズム儀礼で用いられる太鼓の位置づけなどについても検討。						

甲地利恵 (編) アイヌ音楽研究に関する文献リスト (2023年まで)

通し 加 番	編者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名	ページ	発行所	発行地
			URL			最終閲覧年月日
備考						
21	МАМЧЕВА, Наталья А. (MAMCHEVA, Natalya A.)	2019年	Музыка и Природа в Представлениях Коренных Жи-Телей Сахалина: Нивхов, Уйльта (Ороков), Айнов			
	ДОБЖАНСКАЯ, О.Э.(DOBJANSKAYA, O. E.) and ИГНАТЬЕВА, Т.И.(IGNATYEVA, T. I.) (ed.)		<i>Звучащие Ландшафты Арктики</i>	35-69	НАУКА	Новосибирск
	Academia		https://www.academia.edu/41176048/Звучащие_ландшафты_Арктики_О_В_Василенко_О_Э_Добжанская_В_Е_Дьяконова_и_др_под_общ_ред_О_Э_Добжанской_Т_И_Игнатъевой_Новосибирск_Наука_2019_172_c			2024/2/21
	ロシア語。タイトル直訳は「サハリン先住民の視点からみた音楽と自然：ニヴフ、ウイльта、アイヌ」。					
22	NATTIEZ, Jean-Jacques (ナティエ, ジャン=ジャック)	1983年	The Rekkukara of the Ainu (Japan) and the Katajjaq of the Inuit (Canada): A Comparison			
			<i>The World of Music Vol. 25, No. 2</i>	33-44	Verlag für Wissenschaft und Bildung	Berlin
	JSTOR		https://www.jstor.org/stable/43560906			2024/2/5
	樺太アイヌのレクッカラと、カナダのイヌイトのカタジャクとの比較考察。					
23	OGAWA, Takashi (小川昂)	1961年	Traditional Music of the Ainu			
			<i>Journal of the International Folk Music Council vol.13</i>	75	Cambridge University Press	(未確認)
	JSTOR		https://www.jstor.org/stable/i234639			2024/2/22
	英語。International Folk Music Councilの機関誌。日本放送協会が制作した表題の音声資料(レコード盤)の内容紹介。2(1)79の甲地(2018)のP.81-83に同じレコード盤かと思われる情報。なお、前年1960年にウイーンで開催されたInternational Folk Music Council総会に参加した小川は講演、出版物や制作レコードの展示のほかアイヌ音楽をスライドで上映している(NHK「日本民謡大観」制作スタッフ編1995:33)。					
24	SAVAGE, Patrick E. (サヴェジ, パトリック・E)/MATSUMAE, Hiromi (松前ひろみ)/OOTA, Hiroki (太田博樹)/STONEKING, Mark/CURRIE, Thomas E./ TAJIMA, Atsushi (田嶋敦)/ GILLAN, Matt (ギラン, マット)/ BROWN, Steven	2015年9月29日	How 'Circumpolar' is Ainu Music? Musical and Genetic Perspectives on the History of the Japanese Archipelago			
			<i>Ethnomusicology Forum; vol. 24, 2015</i>	443-467	British Forum for Ethnomusicology	(未確認)
	Taylor and Francis Online>Ethnomusicology Forum		https://www.tandfonline.com/toc/remf20/24/3?nav=toCList			2024/2/22
	英語。アイヌ音楽数百曲をカントメトリクス的な視点から分析し、その音楽的傾向を明らかにするとともに、遺伝子学の近年の成果をふまえ、音楽と遺伝子との関係性について論述。					
25	RAČIŪNAITĖ-VYČINIENĖ, Daiva	2012年	Lithuanian and Ainu Vocal Polyphony: Certain Parallels			
	TSURTSUMIA, Rusudan and JORDANIA, Joseph (ed.)		<i>The 5th International Symposium of Traditional Polyphony</i>	306-332	International Research Center for Traditional Polyphony of Tbilisi Vano Sarajshvili State Conservatoire	Tbilisi
	International Research Center for Traditional Polyphony		https://symposium.polyphony.ge/en/publications/v-symposium/ https://symposium.polyphony.ge/პანთელეონები/v-ბობინაბოეონები/			2024/2/7
	英語。ほかにジョージア(グルジア)語訳(p.290-305)も掲載。2010年にトビリシで行われたシンポジウムの予稿集。リトアニアの伝統音楽の一つである「スタルティネス」とアイヌの「ウコウク」との比較論考。					
26	RENNER, Nathan Andrew	2012年10月25日	Ainu Ceremonial Music and Dance: "Restored" and Recontextualized			
			<i>MUSICULTURES, vol. 39 No. 1, 2012</i>	208-230	Canadian Society for traditional Music	Kingstonか (未確認)
	Musicultures>Canadian Society for traditional Music		https://journals.lib.unb.ca/index.php/MC/issue/view/1520			2024/2/5
	英語。2010年前後のフィールドワークをもとに現代のアイヌ音楽の活動状況を踏まえ、伝統音楽の復興とその脈絡変換をテーマに考察するもの。					
27	RENNER, Nathan Andrew	2022年11月	"Ainu are not Ecologists!": Ainu Music, Environmental Activism, and Conceptual Sovereignty for Indigenous People in Japan, 2011-2021	*	University of Tronto	Tronto
	University of Tronto>TSpace		https://tspace.library.utoronto.ca/handle/1807/125551			2024/2/5
	*序文等:10(ローマ数字で記載)、本文:246。英語。博士論文(トロント大学)。					
28	ROSENBERG, Patia M.	1967年	<i>Ainu Music</i>	*	University of Michigan	Ann Arborか (未確認)
	*序文等:14(ローマ数字で記載)、本文:110、付録(採譜など):73。英語。修士論文(ミシガン大学)。指導教官としてMALM, William P.(マルム, ウィリアムP.)。日本音楽研究者。著書にはアイヌ音楽について短く言及しているものもあるの名も挙がっている。					

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名 所収書名・掲載誌名 URL	ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
29	SHINDO, Kimiko (進藤真美子)	1994年2月28日	Motivating University Students to Appreciate Ainu Culture through Ainu Dance (からだで学ぶアイヌ文化—舞踊学習がひらくもの)			
	北海道教育大学/James Cook University 共同研究プロジェクト (代表: 小山内洗、LOOS, Noel)		<i>Indigenous Minorities and Education: Australian and Japanese Perspectives of their Indigenous Peoples, the Ainu, Aborigines and Torres Strait Islanders</i> (北海道教育大学/James Cook University・共同研究報告書 先住民族と教育)	93-103	発行者: 北海道教育大学 (代表: 谷本一之) /発行所: 三友社	東京
	英語。北海道教育大学とJames Cook Universityの共同研究報告書に所収。同書出版年は日本語奥付では訂正シールで「平成6年」だが英語は「©1993」のまま。 () 内の邦題は同書の日本語目次による。アイヌ舞踊を教材とした大学での教育についての論考。アイヌ舞踊の各曲目の動き(振付)についてまとめた記述。					
30	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1966年12月30日	A Study on the tone-system of Ainu music (アイヌ音楽音組織の研究)			
			『北海道教育大学紀要(第一部C)』第17巻第2号	83-106	北海道教育大学	札幌
	北海道教育大学学術リポジトリ		https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=2&q=117			2024/2/7
	英語。目次に日本語タイトル(アイヌ音楽音組織の研究)。3(1)191での次の各章と関連: 谷本一之「アイヌ音楽について」(p.3-17)及び各章の音楽分析の記述(p.21-25「ウボボの音楽的特色」/p.146-149「リムセの音楽的特色」/p.275-276「イフムケの音楽的特色」/p.326-332「労働歌の音楽的特色」/p.435「カムイ・ユーカラの音楽的特色」)					
31	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1968年9月25日	A Study on the Tonal System of the Giljak Folk Melodies (ギリヤーク民謡音組織の研究)			
			『北海道教育大学紀要(第一部A)』第19巻第1号	75-84	北海道教育大学	札幌
	北海道教育大学学術リポジトリ		https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=2&q=133			2024/2/7
	英語。目次に日本語タイトル(ギリヤーク民謡音組織の研究)。ニヅフ(ギリヤーク)の歌謡の音楽分析であるが、後半にアイヌ音楽との類似点などに言及する箇所あり。					
32	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1981年	The present condition of the preservation and study of Ainu music			
	Organizing Committee of International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property (ed.)		<i>International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property -Preservation and Development of the Traditional Performing Arts-</i>	129-133	Tokyo National Research Institute of Cultural Properties (東京文化財研究所)	東京
	東京文化財研究所>刊行物一覧		https://www.tobunken.go.jp/japanese/symposium.html			2024/2/8
	英語。東京文化財研究所が1980年8月に開催した第4回国際シンポジウムの報告書。上記ウェブサイトには当日のプログラムのみ掲載されている。					
33	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1985年	A Study on the Process of Chronological Changes in the Music of Sakhalin Ainu Recorded by B. PILSUDSKI			
	Executive Committee of the International Symposium (編)		<i>Proceedings of THE INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON B. PILSUDSKI'S PHONOGRAPHIC RECORDS AND THE AINU CULTURE</i>	78-85	北海道大学 (Hokkaido University)	札幌
	英語。国際シンポジウム「The International Symposium on B. PILSUDSKI's Phonographic Records and the Ainu Culture」(1985年9月、札幌)の報告書。ピウスツキの蠟管に記録された樺太のアイヌ音楽についての報告。					
34	TANIMOTO, Kazuyuki (ed.) (谷本一之(編))	1993年	『北方諸民族芸能祭報告 民族芸能交流とシンポジウム <i>Proceedings of International Symposium on the Comparative Studies of the Music, Dance and Game of Northern Peoples</i> 』	128	北方諸民族芸能祭実行委員会か(発行者名の記載なし)	札幌
	英語、ロシア語、日本語。1992年に札幌で開催された「北方諸民族芸能祭」の報告書。TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)「Typology of song and dance among the northern peoples (北方諸民族の歌と踊りのタイポロジー)」(p.115-119)、NATTIEZ「Inuit, Ainu and Siberian vocal games in a circumpolar perspective (極北世界のイヌイット、アイヌ、シベリア諸族の声のあそび)」(p.39-46)など計13編。					
35	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1994年2月28日	The Ainu in Transition: The Process of Change as Seen in their Music (変化の中のアイヌ民族—歌と踊りに見られる変化の過程)			
	北海道教育大学/James Cook University 共同研究プロジェクト (代表: 小山内洗、LOOS, Noel)		<i>Indigenous Minorities and Education: Australian and Japanese Perspectives of their Indigenous Peoples, the Ainu, Aborigines and Torres Strait Islanders</i> (北海道教育大学/James Cook University・共同研究報告書 先住民族と教育)	88-92	発行者: 北海道教育大学 (代表: 谷本一之) /発行所: 三友社	東京
	英語。北海道教育大学とJames Cook Universityの共同研究報告書に所収。同書出版年は日本語奥付では訂正シールで「平成6年」だが英語は「©1993」のまま。 () 内の邦題は同書の日本語目次による。					
36	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1995年10月13日	Voice of Human and Nature: Sound World of Animism and Shamanism			
	Northern Studies Association(ed.)		<i>International Conference on Animism and Shamanism in the North</i>	22	北海道大学	札幌
	英語。					

甲地利恵 (編) アイヌ音楽研究に関する文献リスト (2023年まで)

通し 加筆し 備考	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地 最終閲覧年月日
	所収編著者 webページ名	所収書名・掲載誌名 URL					
37	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1995年7月21日	The Ritual Role of Songs and Dances in Iyomante (アイヌの熊送りの芸能的要素)				
	株式会社たおフォーラム (編)		『「東アジアにおける民俗と芸能」国際シンポジウム論文集』	67-69	東アジアにおける民俗 と芸能国際シンポジウ ム論文集刊行委員会	東京	
	英語。1994年に開催されたシンポジウムの報告書。全論文を日本語・英語・中国語(簡体)の3言語で掲載。本論文の日本語版・中国語版については3(1)151に記載。						
38	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1997年	Music for the global family : The tradition which sings about the present				
	KATSUMURA, Jinko and TOKUMARU, Yoshihiko (ed.) (勝村仁子・徳丸義彦 (編))		<i>Report of World Musics Forum — "World musics as a means of international understanding" A multicultural approach in music education</i>	1-4	Foundation for the Promotion of Music Education and Culture	(未確認)	
	英語。1996年開催のフォーラム (World Musics Forum) の報告書。						
39	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1998年3月31日	The world (use) of sounds in Animism and Shamanism				
	大島稔 (編)		『カムチャツカ半島諸民族の生業・社会・芸能』	1-9	小樽商科大学言語センター	小樽	
	英語。目次の日本語訳タイトルは「アニミズムとシャーマニズムの音の世界」。日本語要旨あり。						
40	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	1999年	To Live Is To Sing				
	FITZHUGH, William w. and DUBREUIL, Chisato. (ed.)		<i>Ainu: Spirit of a Northern People</i>	282-285		Washington, DC	
					Arctic Study Center, National Museum of Natural History Smithsonian Institution / University of Washington Press		
	Smitsonian Libraries > Books		https://library.si.edu/digital-library/book/ainuspiritofnort00wash				2024/2/9
	英語。1999年4月～2000年1月にスミソニアン国立博物館で行われた展示の図録。計55編の解説文のうちの一つ。						
41	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	2001年	Japan, VIII, Regional traditions, 2. Ainu				
	SADIE, Stanley(ed.) TYRRELL, John(ex-ed.)		<i>The New Grove Dictionary of music and Musicians [second edition], vol.12</i>	882-884	Macmillan Publishers Limited	London	
	英語。事典の項目。The New Grove Dictionary of Music and Musiciansの第2版(2001)全29巻の第12巻。第1版(1980)第9巻での内容(Japan, VI, 3: Folk music, 3. Ainu music)を踏襲しつつ、第2版では「Late 20th-century development」などの新情報も加えられている。なお第1版(1980)は日本語版『ニューグロヴ世界音楽大事典』(1992、講談社)がある。						
42	TANIMOTO, Kazuyuki (谷本一之)	2002年	<i>Music of the Ainu, Nivkhi, and Uilta</i>				
	PROVINE, Robert C., TOKUMARU, Yoshihiko and WITZLEBEN, Lawrence (ed.)		<i>The Garland Encyclopedia of World Music vol.7 East Asia : China, Japan, and Korea</i>	783-788	Routledge	New York	
	英語。The Garland Encyclopedia of World Music (全10巻)の第7巻(East Asia : China, Japan, and Korea) (附録CD1枚、ただしアイヌ音楽は収録されていない)に所収。同じ著者による執筆項目はほかに「Siberia」(p.1027-1031)。						
43	TOMITA, Tomoko (富田友子 (著)) / TANGIKU, Itsuji and SHINOHARA, Chika(ed.) (丹菊逸治・篠原智花 (編))	2017年	<i>The World of Tonkori</i>		69	Center for Ainu and Indigenous Studies, Hokkaido University	札幌
	英語。Hokkaido University Center for Ainu and Indigenous Studies Booklet Vol. 7として刊行。日本語で出版された3(1)186の英語版。						
44	UYEDA, Kumiko (上田久美子)	2015年	<i>The Journey of the Tonkori: A Multicultural Transmission</i>		*	University of California, Santa Cruz	Santa Cruz
	eScholarship UC Santa Cruz		https://escholarship.org/uc/item/1600x55b				2024/2/21
	*序文等:13(ローマ数字で記載)、本文:285。英語。博士論文(カリフォルニア大学サンタクルズ校)。2010年代に実施したトンコリ演奏者数名への聞き取り調査を軸にした、トンコリの歴史的な変遷、社会的位置づけの変化などについての論考。						
45	UYEDA, Kumiko (上田久美子)	2021年3月12日	Three Ainu Musicians: A Legacy of Resistance and Synergy				
			<i>Senri Ethnological Studies, 105</i>	249-266	National Museum of Ethnology	吹田	
	国立民族学博物館 > みんなのレポトリ		https://minpaku.repo.nii.ac.jp/records/8718				2024/2/6
	英語。1997年のアイヌ文化振興法がアイヌの芸能やそれを取り巻く環境に与えた影響について、3人の音楽家へのインタビューを通して考察。						

通し番号	編著者名	発行年月日	表題または書名		ページ	発行所	発行地
	所収編著者	所収書名・掲載誌名	webページ名	URL			
46	UYEDA, Kumiko (上田久美子)	2019年	Negotiating Animism in Indigenous Ainu Music				
		DEFrance, Yves(ed.)	<i>In Voicing the Unheard: Music as windows for minorities</i>		169-184	L'Harmattan.	Paris
	英語。International Council of Traditional Music (国際伝統音楽学会) のMusic and Minorities部会によるシンポジウム (2016年6月) の予稿集に掲載。						

Bibliography of Ethnomusicological and Related Studies of Ainu Music (until 2023)

KÔCHI, Rie

This bibliography is a listing of ethnomusicological studies of Ainu music and articles from other related fields in Japanese and European languages (including Russian). These studies are essential for research of Ainu music. This compilation is offered for purposes of use by students, researchers and scholars considering musicological studies of Ainu music, and by anyone who seeks to pass on the

traditions of Ainu music performance.

The work to compile this listing is part of basic research (C)18K01183 supported by a MEXT Grant-in-aid for Scientific Research (KAKENHI): The Analysis of the Melodic Structure of Ainu Traditional Music and the Basic Research into the Materials of Northern Peoples' Musics for the Prospective Comparative Studies (FY2018-23, principal researcher KÔCHI, Rie).